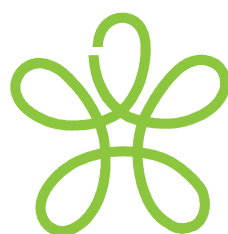


# 総合理工学研究科 履修要項

2026

令和8年度



近畿大学



# 総合理工学研究科履修要項

## 目 次

令和8年度近畿大学学年暦（大学院）	1
1. 近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」	2
2. 各専攻のカリキュラム・ディプロマポリシー	2
3. 入学から学位授与までの過程（博士前期課程・修士課程）	11
4. 研究指導計画について	12
（様式1）博士前期課程・修士課程 研究計画書	
（様式2）博士前期課程・修士課程 研究進捗報告書	
（様式3）博士後期課程 研究計画書	
（様式4）博士後期課程 研究進捗報告書	
5. 教務委員会からのお知らせ	20
6. 大学院「教育プログラム」における他研究科等の履修および単位認定について	21
7. 博士前期課程・修士課程 履修計画と学修について	
(1) 理学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	25
(2) 物質系工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	31
(3) メカニクス系工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	32
(4) エレクトロニクス系工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	34
(5) 環境系工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	35
(6) エネルギー理工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	36
(7) 東大阪モノづくり専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	38
8. 博士後期課程 学修について	
(1) 理学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	39

(2) 物質系工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	41
(3) メカニクス系工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	42
(4) エレクトロニクス系工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	43
(5) 環境系工学専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	44
(6) 東大阪モノづくり専攻	
・履修方法・授業科目・担当教員	45
9. 授業時間について	46
10. 履修登録について	46
11. 履修科目の単位認定について	46
12. 成績について	46
13. 課程の修了について	46
14. 博士学位論文審査料（手数料）	47
15. 博士前期課程より博士後期課程に進む場合について	47
16. 学籍関係の概略	
1. 学籍番号	47
2. 各種変更届について	47
3. 退学・休学・再入学・除籍・復学について	48
17. 学位論文の作成について	48
18. 資格取得教育職員免許状（中学校・高等学校専修）	48
19. 証明書等発行手数料一覧	48
20. 中央図書館案内	49
21. 大学院学生への伝達方法	49
22. 定期健康診断	49
23. 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い	50
24. 災害発生時の救急、避難措置についての対策マニュアル	50
25. 奨学金・教育ローンについて	54
近畿大学校舎配置図	56

## 令和 8 年度 近畿大学学年暦 (大学院)

4月1日(水)	令和8年度 年度始め
4月1日(水)	入学式(東大阪キャンパス・農学・医学・生物理工学)
4月上旬	令和8年度 履修指導および履修登録※ 履修登録期間は各研究科毎に設定
4月6日(月)	前期授業開始※
7月4日(土)	令和9年度 博士前期・修士課程 学内推薦入学選考
8月4日(火)	前期授業終了(試験期間を含む)※
8月5日(水)～9月11日(金)	夏期休暇※
9月12日(土)	後期授業開始※
9月12日(土)	令和9年度 博士前期・修士課程 入学選考 令和9年度 博士後期・博士課程 入学選考 (法学・経済学・医学研究科を除く研究科実施)
11月上旬	大学祭(休講)※
11月5日(木)	大学創立記念日
12月23日(水)	年内授業終了※
12月24日(木)～1月7日(木)	冬期休暇※
1月9日(土)	令和9年度 博士課程 入学選考【薬学研究科(薬学専攻)・医学研究科のみ】
1月12日(火)	授業再開※
2月20日(土)	令和9年度 博士前期・修士課程 入学選考 令和9年度 博士後期・博士課程 入学選考
3月18日(木)	学位記授与式(東大阪キャンパス)
3月31日(水)	令和8年度 年度終了

※東大阪キャンパスについて記載

## 1. 近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」

近畿大学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的に掲げています。

この「建学精神」と「教育の目的」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標にそって、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しております。

学生の皆さんには、上記の建学精神と教育の目的を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最も相応しい将来設計をされることを願っております。

## 2. 各専攻のカリキュラム・ディプロマポリシー

以下のとおり総合理工学研究科では各専攻にてカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）・ディプロマポリシー（学位授与の方針）を設置しています。

※各専攻カリキュラムツリー・学位論文評価基準は総合理工学研究科HPを参照

### (1) 理学専攻

#### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

理学専攻では、これまでに蓄積されたものを学び、現在の種々の問題を見つけだし、取組み、新しい知見に至るための能力を身につけなければなりません。また社会的な責任感を養う必要があります。このために次のようなカリキュラムを実施しています。なお、ディプロマポリシーに学習成果として定めた資質・能力と、カリキュラムとの連関は、カリキュラムツリーで示しています。

#### [博士前期課程]

各科目特論によって専門分野の必要知識を修得します。各分野の特別研究では、指導教員の指導を受けてそれぞれの科目の研究を進めます。共通科目では、文献を理解し、自らも発表するための語学力も磨きます。関連する分野、あるいは学際的な分野を学び、視野を広めるための科目も置かれます。生物・環境化学遺伝カウンセラー養成課程では、認定遺伝カウンセラー認定試験受験のための科目も置かれます。

#### [博士後期課程]

特殊研究を各人が1つ選びます。そこでは指導教員のもとで、自立して研究できる能力を目指しつつ研究を進めます。このほか、博士前期課程と共通の科目や演習などが開かれています。

各科目の学習・教育目標及び到達目標や授業概要はシラバスに記載されていますので、参照してください。また、各科目の学修成果は、シラバスの項目〔授業概要と方法〕で定期試験、課題レポート、授業中の小テスト、プレゼンテーション、質疑応答、アクティブラーニング後のルーブリック評価等の評価を用いて、シラバスの項目〔成績評価方法および基準〕に明示された方法で評価します。

#### ディプロマポリシー（学位授与の方針）

理学専攻は、近畿大学の建学の理念である「実学教育」に基づき、理学の先端的基礎研究分野である、数理解析、物理学、機能性分子化学、生物・環境化学分野で研究活動を行っています。これらの分野の先進的な研究に携わることによって科学・技術の発展に寄与し、社会に貢献できる科学者、技術者、研究者、及び未来の人材を育てる高等教育者を育成することが理学専攻の目標です。この目標を見据えて、各課程修了までに以下の資質・能力の修得が望まれます。

#### [博士前期課程]

1. 自然科学における基礎的な概念・原理・法則を理解するための十分な知識を修得していること。
2. 自然科学に関する研究や技術の専門的課題を自主的に解決する能力を修得していること。
3. 自然科学に関する専門的な研究や技術について、自らの考えを論文の形で表現し、コミュニケーションできる能力を修得していること。

#### [博士後期課程]

1. 自然科学の概念・原理・法則に関する新たな知見を自主的に発見・創造できる能力を修得していること。
2. 自然科学に関する研究や技術の専門的課題を自主的に見出し、解決する能力を修得していること。
3. 自然科学に関する専門的な研究や技術について、日本語および英語で表現し、コミュニケーションできる能力を修得していること。

上記の資質・能力が修得できているかの審査基準は、別途定めた学位論文審査基準を参照してください。審査基準を達成したと認められた者には、博士前期課程においては修士(理学)の学位が、博士後期課程においては博士(理学)の学位が授与されます。

### (2) 物質系工学専攻

#### カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本専攻は、分子プロセス工学・複合物質工学・材料創成工学の3分野から構成されており、それぞれの分野の学際的な特徴を生かし、広領域における諸問題を解決できる柔軟な思考力と豊かな創造性を身につけた人材を育成するための学術・研究指導を行います。さらに、学会参加や外部との積極的な交流を通して、情報発信能力やコミュニケーション能力を養い、TA・RAとして、学部学生への指導を通して、リーダーシップを養うなど“人間力”の養成を重視しています。なお、ディプロマポリシーに学修成果として定めた資質・能力と、カリキュラムとの関連は、カリキュラムマップで示しています。

※カリキュラムツリーは総合理工学研究科HPに掲載

#### [博士前期課程]

学士として修養してきた基礎力をさらに培うため、全員が物理化学・無機化学・有機化学の3領域それぞれの「物質工学総論」を全て履修し、基礎力強化を図ります。これを基盤に各種の特論科目を履修することで、幅広い分野にわたって先端知識を修得します。特別研究ではそれぞれの担当する教員の指導のもと、倫理性・倫理観・問題解決のための実践力を養います。その際、指導教員の属する分野(分子プロセス工学・複合物質工学・材料創成工学のいずれか)内でのコミュニケーションを通じて、研究展開のための広い視野を身に付けます。また、各科目の学修成果は、シラバスの項目〔授業概要と方法〕で中間試験、定期試験、レポート、授業中の小テスト、プレゼンテーション、質疑応答、アクティブラーニング後のルーブリック評価などで評価し、その評価方法についても、シラバスの項目〔成績評価方法および基準〕に明示しています。

#### [博士後期課程]

特殊研究科目群と演習科目群を通じて、博士前期課程で得られた成果を発展させて、応用化学の高度な専門知識、さらには専門領域の枠を超えた工学分野における問題設定・課題解決能力を備えた、国際的に活躍できる自立した研究者を養成します。

1. 特殊研究科目群では、各自が選択した特殊研究において、指導教員との相談のうえ当該分野発展のための研究課題を設定し、的確な情報収集と分析にもとづいて実験をデザインし、遂行する能力を身に付けます。また、得られた成果を国内外の学会・学術誌にて発信する能力を身に付けます。
2. 演習科目群では、分子プロセス工学・複合物質工学・材料創成工学を提供し、これらの分野内、さらには分野間での積極的なコミュニケーションを通じて、新たな研究領域の開拓に挑戦する姿勢を身に付けます。

また、各科目の学修成果は、シラバスの項目〔授業概要と方法〕で中間試験、定期試験、レポート、授業中の小テスト、プレゼンテーション、質疑応答、アクティブラーニング後のルーブリック評価などで評価し、その評価方法についても、シラバスの項目〔成績評価方法および基準〕に明示しています。

#### ディプロマポリシー(学位授与の方針)

広領域における諸問題を考察できる柔軟な思考力と豊かな創造性を身につけた人材を輩出するため、学位論文審

査では、分子プロセス工学・複合物質工学・材料創成工学の各分野の教員が、主査・副主査として審査を行います。また、博士の学位審査の際は、国際学術雑誌への投稿状況も公表し、審査水準の明確化を行っています。

#### [博士前期課程]

修了認定のためには、「物質工学総論」の履修により基礎力強化が認められること（DP1：専門知識）、かつ各特論の履修により諸分野における先端知識を修得したこと（DP2：論理的思考）が認められることが必要です。また、研究計画書や研究進捗報告書の作成、ならびに報告会でのプレゼンテーション実施により、修士論文作成にむけて着実に研究が進捗していること（DP3：研究実践能力）が認められることが必要です。修士論文の審査は指導教員を含む複数の教員によっておこなわれ、提出された論文の記載内容をもとに質疑応答を行い、修士としてふさわしい学識・論理的思考・倫理観・研究実践能力を有すると判断された場合に、修士（工学）の学位が授与されます。その審査基準は、別途定めた学位論文審査基準を参照にしてください。

#### [博士後期課程]

研究計画や研究進捗報告書の作成、ならびに報告会でのプレゼンテーション実施により、研究企画能力を有していること（DP1：研究企画能力）、さらに広い視野をもちつつ柔軟な発想により研究を遂行している（DP2：研究遂行の力）と認められることが必要です。また、研究成果に関する論文が、査読付き学術誌に一定基準数以上掲載された場合（DP3：学術掲載）に、博士論文の提出が認められます。博士論文の審査は指導教員を含む複数の教員によって行われ、提出された論文の記載内容をもとに質疑応答を行い、研究成果が当該分野の発展に寄与する内容を含んでおり、かつ多分野にわたる視点からその内容を議論できる能力を有すると判断された場合に、博士（工学）の学位が授与されます。その審査基準は、別途定めた学位論文審査基準を参照にしてください。

### (3) メカニクス系工学専攻

#### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

メカニクス系工学専攻では、機械工学の専門知識を実社会に応用し幅広く国際社会で活躍でき、さらに次世代社会の高度発展を支える機械工学に関する基盤技術を設計・開発できる研究者、高度専門技術者を育成するために、以下のカリキュラムを提供します。

なお、ディプロマポリシーに学修成果として定めた資質・能力と、カリキュラムとの関連は、カリキュラムマップで示しています。

#### [博士前期課程]

1. 機械工学の基礎から応用研究までの専門知識を修得し、継続的に最新の専門知識を学修できる能力を育成するために、以下の科目分野を提供します。
  - ・材料・プロセッシング・材料強度学分野
  - ・エネルギー・流れ分野
  - ・機力・制御分野
  - ・設計・生産・加工分野
2. 研究した成果をまとめ、学会で口頭発表できる能力を育成するために、「特別研究」において2年間を一貫して指導します。
3. 産学官の中核的人物としてのグローバルな視点と、英語論文を読解する能力を育成するために、「特別研究」において、英語論文の読解を実践します。さらに、「実践科学技術英語演習Ⅰ」をはじめとする外国語科目を提供します。

#### [博士後期課程]

1. 機械工学の基礎から応用研究までの高度な専門知識を修得し、継続的に最新の専門知識を学修できる能力を育成するために、以下の演習科目を提供します。
  - ・材料・プロセッシング・材料強度学演習
  - ・エネルギー・流れ演習
  - ・機力・制御演習
  - ・設計・生産・加工演習
2. 研究した成果を学術論文にまとめ、査読に通って社会に広く公表することができる能力を育成するために、「特殊研究」において3年間を一貫して指導します。
3. 産学官の中核的研究者としてのグローバルな視点と、英語で発表できる能力を育成するために、「特殊研究」

において国際会議での英語のプレゼンテーション技術を指導します。

また、各科目の学修成果は、シラバスに明示するレポートや演習、プレゼンテーション、討論などを通じて、点数評価やルーブリック評価等の達成度評価を実施します。

#### ディプロマポリシー（学位授与の方針）

メカニクス系工学専攻は、近畿大学の建学の理念である「実学教育」に則り、機械工学の専門知識を実社会に応用し幅広く国際社会で活躍でき、さらに次世代社会の高度発展を支える機械工学に関する基盤技術を設計・開発できる研究者、高度専門技術者の育成を目的としています。

この目的を達成するために、つぎの学修成果の修得を到達目標とし、これらを達成した者に学位を授与します。

#### [博士前期課程]

1. 機械工学の基礎から応用研究までの専門知識を修得し、継続的に最新の専門知識を学修できること。
2. 研究した成果をまとめ、学会で口頭発表できる。
3. 産学官の中核的人物としてのグローバルな視点を持ち、英語論文を読解できること。

#### [博士後期課程]

1. 機械工学の基礎から応用研究までの高度な専門知識を修得し、継続的に最新の専門知識を学修できる。
2. 研究した成果を学術論文にまとめ、査読に通って社会に広く公表することができること。
3. 産学官の中核的研究者としてのグローバルな視点を持ち、英語で発表できること。

以上の到達目標が達成できているかを確認するために、研究計画ならびに進捗を定期的に報告する機会を設け、さらに指導教員以外の関連研究分野の教員を主査とし、指導教員を含む2名の副主査、および必要な場合若干名の副査をくわえて審査委員会を構成し、論文審査と口頭試問による最終試験を行います。

最終試験における審査基準は、別途定めた学位論文審査基準に明示しています。

#### (4) エレクトロニクス系工学専攻

##### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

エレクトロニクス系工学専攻は、計測・情報システム、材料・デバイスの2分野から構成されており、それぞれの分野の多様な特徴を生かし、幅広い課題に対処できる柔軟な思考力と豊かな創造性を身につけた人材を育成するために次のようなカリキュラムを実施しています。なお、ディプロマポリシーに学修成果として定めた資質・能力と、カリキュラムとの関連は、カリキュラムマップで示しています。

#### [博士前期課程]

博士前期課程では、本学理工学部の電気電子通信工学科における教育を基盤とし、それぞれの分野ごとに編成された講義・演習を通じて、専門知識・技能を体系的に学べる教育プログラムを提供しています。科目群として特論科目、特別研究、専門基礎科目、共通科目が設定されています。

1. 特論科目群では、論理的説明、批判的思考力を養うための分野ごとの最新情報を提供し、学生が自ら情報収集する能力を養成します。学部で学んだ内容をより深く理解し、研究を進めていく上での基礎学力を高め、問題解決および対応能力が身につきます。
2. 特別研究では、担当教員の指導のもとで、各自の研究課題に取り組む機会と環境を与え、分析能力と問題解決能力を育成します。高度な専門性を必要とする職業を担うための実践的な能力を培わせます。学会・研究会への参加を行わせ、外部の研究者・研究機関との交流を通じ、論理的な説明力と批判的思考力を養成します。
3. 共通科目群では、技術者・研究者としてグローバルなコミュニケーション能力の養成、国内だけでなく国際社会における発信能力を高め、求められる倫理についての認識を深めます。
4. 専門基礎科目では、幅広い課題に対処できる基礎力を身につけます。

#### [博士後期課程]

博士後期課程では、特殊研究科目群と演習科目群を通じ、博士前期課程での教育によって得られた成果を発展させ、専門領域の枠を超えた工学分野における問題設定・解決能力を備え、国際的に活躍できる自立した研究者を養成します。

1. 特殊研究科目群では、担当教員の指導のもとで、主体的に研究課題に取り組む機会と環境を与え、分析能力と問題解決能力を育成します。研究立案のための課題設定能力を養成します。専門の学会・研究会における学会発表、論文投稿による研究成果の発信を求め、電気電子工学、情報通信技術の国際的な発展に寄与し、協調性を持ち、倫理性と指導力を備えた研究者として社会的に通用する人材輩出を目標とします。
2. 演習科目群では、自分の研究の周辺分野に関連する演習を行い、基礎理論、基礎技術を習得します。また、未知の課題を発見するための能力を養成します。

#### ディプロマポリシー（学位授与の方針）

エレクトロニクス系工学専攻では、近畿大学の建学の精神である実学教育と人格の陶冶に則り、電気電子分野、通信分野、情報工学分野における研究者・技術者として幅広い見識と健全な倫理観を持ち、持続的に発展可能な社会基盤と高度情報通信社会を支える人材の育成を目的としています。

この目的を達成するために、エレクトロニクス系工学専攻が定めた学位取得までに修得しておくべき学修成果の要件は、以下の通りです。

#### [博士前期課程]

博士前期課程では、

1. 幅広い課題に対処できる高い情報収集・分析能力を有していること。
2. 各自の課題に対する問題解決能力を有していること。
3. グローバルな情報発信能力を有すること。
4. 専門知識に基づいて自らの思考を説明し、妥当性を議論できる論理的かつ批判的思考力を有すること。

以上の要件を確認するために、所定の単位を修得し、修士論文を提出し、論文内容に関する指導教員を含めた複数の教員によって公聴会を行い、審査に合格した学生に修士（工学）の学位が授与されます。

#### [博士後期課程]

博士後期課程では、博士前期課程で求められる能力に加えて、

1. 未知の課題を発見可能にする基礎理論、基礎技術を有すること。
2. 研究を自ら推進するための自主性、問題解決能力を有すること。
3. 円滑な研究活動のための周囲との協調能力を有すること。
4. 健全な社会発展に寄与する研究に求められる公益性の理解、倫理観を備えていること。
5. 国際的視野に立った研究を遂行するに十分な、外国語によるコミュニケーション能力を有すること。

以上の要件を確認するために、博士後期課程で定められた所定単位の取得と当該専門分野の査読付き学術雑誌への基準数以上の論文の掲載を条件として、学位論文の提出が求められます。学位論文の審査は、指導教員を含む複数の教員によって行われます。

この審査において研究者・技術者として社会を牽引できる十分な研究能力の有無を判断し、認められた場合に博士（工学）の学位が授与されます。

### (5) 環境系工学専攻

#### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

環境系工学専攻は、地球・社会環境工学分野、都市・居住環境計画分野、構造・材料・地盤工学分野の3分野から構成されており、各分野の専門知識、研究力を身につけた人類、地球の持続的発展に貢献する技術者・研究者を育成するために次のようなカリキュラムを実施しています。なお、ディプロマポリシーに学修成果として定めた資質・能力と、カリキュラムとの関連は、カリキュラムマップで示しています。

#### [博士前期課程]

各科目特論によって各分野の専門知識を修得します。また、特別研究では、担当教員の研究指導を受け、それぞれの研究を進めます。さらに、共通分野では、国内外の文献を読解できる能力を修得します。

1. 環境系工学の各分野（地球・社会環境工学分野、都市・居住環境計画分野、構造・材料・地盤工学分野）の専門知識の修得を目指した各科目特論などの講義科目を提供します。
2. 国内外の論文を読解し、専門的課題を発見できる能力の修得を目指した講義・演習科目の提供と特別研究での

研究指導を実施します。

3. 課題解決能力とコミュニケーション能力の修得を目指した特別研究での研究指導を実施します。

#### [博士後期課程]

特殊研究では、担当教員の研究指導を受け、国際的に活躍できる自立した研究者を養成します。また、各分野の演習科目により、高度な専門知識を修得します。

1. 環境系工学の各分野（地球・社会環境工学分野、都市・居住環境計画分野、構造・材料・地盤工学分野）の高度な専門知識の修得を目指した演習科目の提供と研究指導を実施します。
2. グローバルな視点を持ち、高度な専門的研究課題の解決を遂行できる能力の修得を目指した演習科目の提供と特殊研究での研究指導を実施します。
3. 学術論文を通じた研究発信の能力、外国語によるコミュニケーション能力の修得を目指し特殊研究での研究指導を実施します。

各科目の学習・教育目標及び到達目標、授業概要、学修成果の評価方法は、シラバスに記載されています。

#### ディプロマポリシー（学位授与の方針）

環境系工学専攻では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に基づき、地球環境保全や社会基盤形成に関係する環境系工学分野（地球・社会環境工学分野、都市・居住環境計画分野、構造・材料・地盤工学分野）の研究活動を行っている。これら分野の専門知識の修得と先端研究に携わることにより、高度な知識・分析力・総合力を持った技術者・研究者の育成を目的としています。

この目的を達成するために、以下の資質・能力の修得を各課程における修了認定の要件とします。

#### [博士前期課程]

1. 環境系工学における課題を理解し、同じ専門の技術者および研究者と遜色なく議論できる専門知識を修得していること。
2. 環境系工学における技術者・研究者として、国内外の論文を読解し、専門的課題を発見できる能力を修得していること。
3. 環境系工学に関する課題解決能力の素養と自らの考えを学会にて口頭発表できるコミュニケーション能力を修得していること。

#### [博士後期課程]

1. 環境系工学における課題を深く理解し、他の技術者および研究者と遜色なく議論できる卓越した専門知識を修得していること。
2. 環境系工学における研究者として、グローバルな視点を持ち、専門的研究課題の解決を計画的に遂行できる能力を修得していること。
3. 環境系工学に関する専門的な研究について、自らの考えを学術論文に発表し、外国語によるコミュニケーション能力を修得していること。

上記の資質・能力が修得できているかの審査基準は、別途に定めた学位論文審査基準によります。審査基準を達成したと認められた者には、博士前期課程においては修士（工学）の学位が、博士後期課程においては博士（工学）の学位が授与されます。

### (6) エネルギー理工学専攻

#### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

エネルギー理工学専攻では、エネルギーに関わる基礎研究や技術開発、ならびに高等教育に寄与する人材として必要な能力の修得、すなわちディプロマポリシーに掲げられた到達目標を達成するため、以下のカリキュラムを提供します。

修士課程では、本学理工学部のエネルギー物質学科における教育を基盤とし、さらに高度な専門知識と実践力を修得します。そのための教育プログラムは、専門基礎科目、特論科目、特別研究、共通科目によって構成されます。なお、専門基礎科目と特論科目は、次世代インフラエネルギー理工学、エネルギーマテリアル理工学、ライフバースエネルギー理工学の3分野に分類されており、各自の将来像に合わせた専門性の修得が可能です。

ディプロマポリシーの各項目と、カリキュラムの連関は、カリキュラムマップで示しています。

#### [修士課程]

1. 専門基礎科目として、3つの分野（次世代インフラエネルギー工学、エネルギーマテリアル工学、ライフデバイスエネルギー工学）それぞれにおいて「総論」を開講します。そのうち1つを選択して履修することで、多岐にわたるエネルギー技術の基盤となっている種々の科学理論を全般的に学び、理解することができます。
2. 各種エネルギー技術に関する知識とその原理への理解を深耕するための「特論科目」を開講します。各自の特別研究の指導教員が担当する特論科目（＝専修科目）は必修科目であり、各自の研究における課題解決に活用できる専門知識を修得することができます。さらに、選択した分野の特論科目を中心に、複数の特論科目を選択履修することで、多様なエネルギー技術に関する先端知識を修得することができます。
3. エネルギーに関わる研究者・技術者としての実践力を培うための「特別研究」を開講します。特別研究は必修科目であり、担当する教員の指導のもと、エネルギー理論や技術に関わる最先端の研究に参画します。指導教員との議論を通じて、特論科目で修得した専門知識を課題解決のために適切に活用する方法を修得します。同時に、実験結果を客観的に解釈しながら公正に研究を進める姿勢、自ら次の実験等を計画し課題解決に向けた努力を継続する意欲といった素養を修得します。  
また、全員必修のゼミナール形式の科目として開講する「エネルギー工学総合演習1」「エネルギー工学総合演習2」の中でも科学技術者倫理について取り上げ、議論を通じて理解を深めます。
4. 特別研究では、研究成果を報告書やプレゼンテーションとして発信し、他者と建設的な意見交換を行う能力を身に付けます。  
また、全員必修のゼミナール形式の科目である「エネルギー工学総合演習1」「エネルギー工学総合演習2」では、特別研究の進捗状況を専攻の教員や大学院生の前で発表し、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を強化します。
5. 特別研究では、英語文献や英語データベースから情報を得る方法や、得られた英文を読解する能力を身に付けます。また、報告書を英文で作成する能力や、プレゼンテーション内で英語で発表する能力を身につけます。  
さらに、「実践科学技術英語演習Ⅰ～Ⅳ」などの共通科目を選択受講することで、英語での作文能力や発表能力などを強化することができます。

#### ディプロマポリシー（学位授与の方針）

エネルギー工学専攻における教育は、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に則り、エネルギー3分野（次世代インフラエネルギー工学、エネルギーマテリアル工学、ライフデバイスエネルギー工学）のいずれかの分野における広範な知識と専門性を備え、論理的思考力、倫理観、柔軟性、情報発信能力、コミュニケーション能力に裏打ちされた問題解決能力を有し、エネルギーに関わる基礎研究や技術開発、ならびに高等教育に寄与する人材の育成を目的としています。

この目的を達成するために、以下に示す能力・資質の修得を目標として定め、これらの目標を達成したことが認められる者に学位を授与します。

#### [修士課程]

1. エネルギー3分野の中から選択した1つの分野において、関連する専門知識を体系的に修得していくために必要な理論を理解する能力を有していること。
2. 選択した分野におけるエネルギー理論やエネルギー技術に関わる専門知識を理解する能力を有していること。
3. エネルギー理論や技術に関わる研究活動において、専門知識を適切に活用しながら、科学技術者倫理に則りつつ、自主的・継続的に課題解決に取り組む能力を有していること。
4. 調査・研究の成果を、報告書やプレゼンテーションにまとめて発信する能力、及び発信した内容をもとに他者と建設的に意見交換を行う能力を有していること。
5. 英語文献やデータベースから必要な情報を入手して各自の調査・研究に活用する能力、及び報告書やプレゼンテーション内で、適切に英語を活用する能力を有していること。

上記の資質・能力が修得できているかの審査基準は、別途に定めた学位論文審査基準によります。審査基準を達成したと認められた者には、修士課程においては修士（工学）の学位が授与されます。

## (7) 東大阪モノづくり専攻

### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

大学指導教員・企業技術者・学生が三位一体となった教育の産学連携を実施しています。

また、企業で実際に研究開発を推進してきた研究者・技術者、さらに弁理士や技術士として活躍している実務型の教員を配置し、総合的な研究者・技術者教育を行っています。

モノづくり技術の発展・継承、日本産業の活性化・発展を担う「新しい価値を創造できる研究者・技術者」を育成するため、カリキュラムには以下の特徴を持たせています。

#### [博士前期課程]

1. モノづくりエンジニアとしての産学間における技術・製品開発に必要な基礎から応用までの知識を修得するため、本専攻では「長期・実践型の産学連携教育」を必修科目である「東大阪モノづくり特別研究ⅠおよびⅡ」で行っています。インターンシップに代表されるような体験型ではなく、主な教育研究の場を企業の研究開発室に設け、研究開発の実務を経験しながら指導を受けることができます。専門知識においては「専修」分野の科目群により修得できるようになっています。
2. モノづくりイノベータとしての技術・製品開発における幅広い分野での高度な専門性（セカンドメジャー）を修得するため、専門分野以外の演習科目「東大阪モノづくり演習」の取得を必修とすることにより、一分野にとらわれない多様な基礎知識と研究能力、広い視野を養成しています。また、「共通ⅠおよびⅡ」分野で開講している「実践科学技術英語演習Ⅰ～Ⅳ」および「国際」分野で開講している「国際インターンシップ」により、グローバルに対応できる高度な英語表現能力を身に付けることができます。
3. モノづくりプロデューサとして技術・製品開発を行ったものに対し特許申請・製品展示会あるいは学術会議において発表できる能力を修得するため、「基礎ⅠおよびⅡ」分野において「知的財産権」・「知的財産管理技法特論」・「コミュニケーションスキル」等を開講しています。また、総合的な研究者・技術者教育・社会人力や社会感覚の養成、国際性の涵養、倫理・コンプライアンス教育、MOT教育などを展開するため、「地場産業組織論ⅠおよびⅡ」・「総合技術管理ⅠおよびⅡ」・「産業倫理」・「モノづくりマネジメント」等、研究者・技術者に必要な総合的な知識を得ることができます。

#### [博士後期課程]

1. モノづくりの基礎から応用研究までの高度な専門知識を修得し、継続的に最新の専門知識を学修できる能力を育成するため、各自が選択した特殊研究科目群において、指導教員との相談のうえ当該分野発展のための研究課題を設定し、モノづくりエンジニアとして産学間において研究開発を行い必要な高度な専門知識を修得できます。
2. モノづくりイノベータとしての産学間で研究開発における幅広い分野での高度な専門性（セカンドメジャー）を修得するため、東大阪モノづくり演習（マテリアルズ）、東大阪モノづくり演習（計測・制御）、東大阪モノづくり演習（メカトロニクス）の演習科目を提供します。また英語による研究開発における企画書・特許出願・説明書等の作成や国際展示会ならびに国際学術会議発表を通じてグローバルに対応できる高度な英語表現能力を修得することができます。
3. 指導教員および企業開発者からの指導により、モノづくりプロデューサとしての研究開発およびそれらに関する特許申請・起業化・査読付き投稿論文作成能力が修得できます。

なお、ディプロマポリシーに学修成果として定めた資質・能力と、カリキュラムとの関連は、カリキュラムマップで示しています。

### ディプロマポリシー（学位授与の方針）

東大阪モノづくり専攻では、近畿大学の建学の精神である実学教育と人格の陶冶に則り、大学指導教員・企業技術者・学生が三位一体となった教育の産学連携を実施することで、モノづくり技術の発展・継承、日本産業の活性化・発展を担う新しい価値を創造できるモノづくりエンジニア、モノづくりイノベータ、モノづくりプロデューサの人材の育成を目的としています。

この目的を達成するために、以下の資質・能力の修得が各課程における修了認定の要件となります。

#### [博士前期課程]

1. モノづくりエンジニアとしての産学間における技術・製品開発に必要な基礎から応用までの知識を修得していること。
2. モノづくりイノベータとしての技術・製品開発における広い専門性（セカンドメジャー）とグローバルに対応

できる英語資料読解能力を有していること。

3. モノづくりプロデューサとして技術・製品開発を行ったものに対して特許申請・製品展示会あるいは学会議において発表できる能力を有していること。

以上の到達目標が達成できているかを確認するために、研究計画ならびに進捗を定期的に報告する機会を設け、さらに指導教員以外の関連研究分野の教員を主査とし、指導教員を含む2名の副主査、および必要な場合若干名の副査をくわえて審査委員会を構成し、論文審査と口頭試問による最終試験を行います。

最終試験における審査基準は、別途定めた学位論文審査基準に明示しています。

#### [博士後期課程]

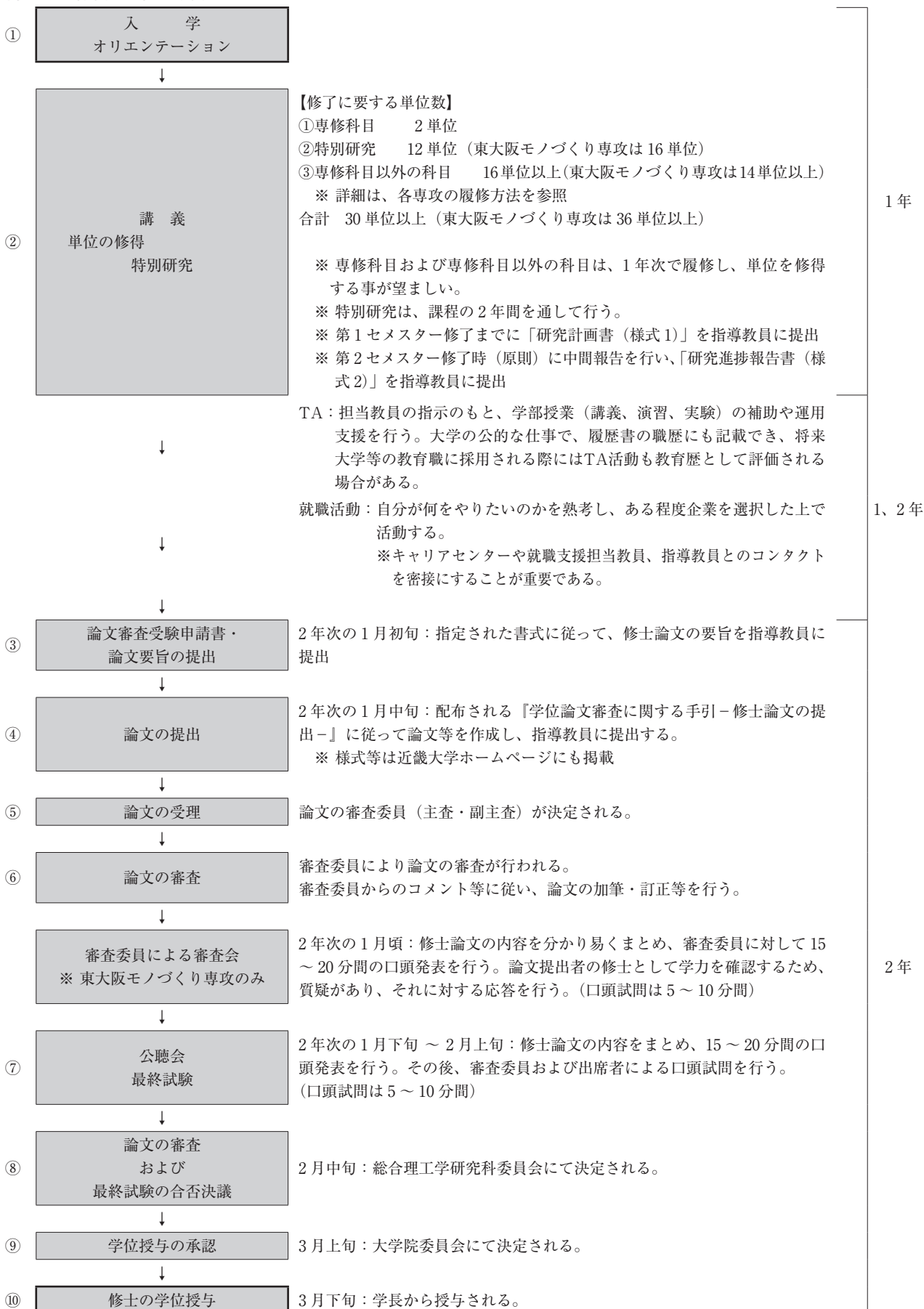
1. モノづくりエンジニアとしての産学間における研究開発に必要な高度な専門知識を修得していること。
2. モノづくりイノベータとしての研究開発における幅広い分野での高度な専門性（セカンドメジャー）の修得とグローバルに対応できる高度な英語表現能力を有していること。
3. モノづくりプロデューサとしての研究開発およびそれらに関する特許申請・起業化・査読付き投稿論文作成能力を有していること。

以上の到達目標が達成できているかを確認するために、研究計画ならびに進捗を定期的に報告する機会を設け、さらに指導教員以外の関連研究分野の教員を主査とし、指導教員を含む2名の副主査、および必要な場合若干名の副査をくわえて審査委員会を構成し、論文審査と口頭試問による最終試験を行います。

最終試験における審査基準は、別途定めた学位論文審査基準に明示しています。

### 3. 入学から学位授与までの過程

#### 博士前期課程・修士課程



## 4. 研究指導計画について

### 1. 目的

大学院総合理工学研究科の博士前期課程・修士課程及び博士後期課程における学位取得までの研究指導計画について明文化し、エビデンスを残すものとする。

### 2. 博士前期課程・修士課程における研究計画（修士論文）

大学院総合理工学研究科博士前期課程・修士課程に入学した学生には以下のような研究指導を行う。

- (1) 博士前期課程・修士課程に入学した学生は、指導教員と相談の上、今後2年間に行う修士論文の研究テーマ、及び修士論文の研究計画を策定する。
- (2) 学生は第1 Semester修了時までに所定の研究計画書（様式1）を指導教員に提出する。
- (3) 指導教員は提出された研究計画書に基づき、学生の研究の進捗状況に応じて助言及び指導を行う。
- (4) 学生は第2 Semester修了時（原則）に、中間報告を行い研究進捗報告書（様式2）を提出する。
- (5) 学生は具体的な修士論文作成に関して指導教員より指導を受け、具体的な修士論文作成の計画を立てる。修士論文審査に係る書類等に関しても指導教員からの指導を受ける。
- (6) 指導教員は修士論文提出する学生が「学位論文審査に関する手引き」に従い、審査及び試験に関する手続き等を遺漏なく行うように指導する。

### 3. 博士後期課程における研究計画（博士論文）

大学院総合理工学研究科博士後期課程に進学、若しくは入学した学生には以下のような研究指導を行う。

- (1) 博士後期課程に進学、若しくは入学した学生は、指導教員と相談の上、今後3年間に行う博士論文の研究テーマ、及び博士論文の研究計画を策定する。
- (2) 学生は第1 Semester修了時までに所定の研究計画書（様式3）を指導教員に提出する。
- (3) 指導教員は提出された研究計画書に基づき、学生の研究の進捗状況に応じて助言及び指導を行う。
- (4) 学生は第2及び第4 Semester修了後、研究進捗報告書（様式4）を提出する。第4 Semester修了時（原則）には、中間報告を行う。
- (5) 学生は具体的な博士論文作成に関して指導教員より指導を受ける。博士論文審査に係る書類等に関しても指導教員からの指導を行う。
- (6) 指導教員は博士論文提出する学生が「学位論文審査に関する手引き」に従い、審査及び試験に関する手続き等を遺漏なく行うように指導する。



(様式1)

令和 年 月 日

博士前期課程・修士課程 研究計画書

学籍番号		専攻	専攻
氏名	印	指導教員	印
研究題目			
研究の目的・背景・特色			
研究計画・方法			

(様式2)

令和 年 月 日

博士前期課程・修士課程 研究進捗報告書

学籍番号		専攻	専攻
氏名	印	指導教員	印
研究題目			
研究の進捗状況			
研究成果の発表			
[学術論文集]			
[国際会議プロシーディングス]			
[学内紀要]			
[学会口頭発表]			
[作品他]			

(様式3)

令和 年 月 日

博士後期課程 研究計画書

学籍番号		専攻	専攻
氏名	印	指導教員	印
研究題目			
研究の目的・背景・特徴			
これまでの研究成果との関係			

研 究 計 画 ・ 方 法

(様式4)

令和 年 月 日

博士後期課程 研究進捗報告書

学籍番号		専攻	専攻
氏名	印	指導教員	印
研究題目			
研究の進捗状況			
当初の研究計画からの変更点など			

研 究 成 果 の 発 表

[学術論文集]

[国際会議プロシーディングス]

[学内紀要]

[学会口頭発表]

[作品他]

## 5. 教務委員会からのお知らせ

### 「広い専門性」修得のススメ

#### 東大阪モノづくり専攻 開講科目の案内

さまざまな研究・開発現場では、新しい試みを提案し、関係者にその意義を説き、理解と協力を得ながら、意欲的に研究開発を推進できるマネジメント力と、最新の機器だけに頼らず、手に入る身近な材料から自ら加工して必要なものを組み上げるモノづくり力とを併せもつことが要求されます。これには「広い専門性」が必要です。東大阪モノづくり専攻で開講されている下記の科目を受講して、「広い専門性」の修得をめざしてみませんか？

#### ■前期開講科目■

「総合技術監理Ⅰ」（2単位）

「産業倫理」（2単位）

「地場産業組織論Ⅰ」（2単位）

#### ■後期開講科目■

「コミュニケーションスキル」（2単位）

「総合技術監理Ⅱ」（2単位）

「地場産業組織論Ⅱ」（2単位）

#### ■集中科目■

「知的財産権」（2単位：夏期集中）

「知的財産管理技法特論」（2単位：後期土曜日集中）\*

「東大阪モノづくり特別演習」（4単位）\*\*

\* 知的財産管理技能士3級（国家資格）の資格試験に合格する知識を修得する。

\*\* 主専攻と異なる専門分野について、それを専門とする学生とディスカッションできる能力を養う。

※履修希望者は、事前に各指導教員と相談の上、期間内に履修登録の追加申請を行ってください。（※詳細はUNIPAにて配信）

集中講義科目については追って案内します。

## 6. 大学院「教育プログラム」における他研究科等の履修および単位認定について

大学院学則第12条に基づき教育研究上有益と認めるときは、当該研究科の指導教授の許可を得て授業科目を履修し、単位取得できるものとする。単位認定の上限は各研究科の細則に準ずる。

### 【大学院学則第12条抜粋】

(本大学院の他の研究科における授業科目の履修)

第12条の2 各研究科委員会において教育研究上有益と認めるときは、本大学院の他の研究科の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により修得した単位は、現に在籍している課程における授業科目の履修により修得したもののみならずることができる。単位認定の上限は別途定める。

指導教授が特に必要と認めたととき、本大学院他研究科・専攻において修得できる単位認定の上限

法学研究科	商学研究科	経済学研究科	総合理工学研究科	建築学研究科	情報学研究科	農学研究科	生物理工学研究科	システム工学研究科	産業理工学研究科
4単位	4単位	4単位	8単位	8単位	8単位	10単位	4単位	10単位	8単位

大学院「教育プログラム」各研究科設置科目

	法学研究科	商学研究科	経済学研究科	総合理工学研究科	農学研究科	生物理工学研究科	システム工学研究科	産業理工学研究科
(A) 現代都市政策プログラム	行政法特論A (前期：水曜4限) 行政法特論B (後期：水曜4限) 行政法特論A (前期：土曜2限) 行政法特論B (後期：土曜2限)		都市政策特論 (不開講)			景観論特論 (後期：火曜2限)		都市学特論A (前期：木曜2限) 都市学特論B (後期：水曜2限)
(B) 税務会計プログラム	租税法特論A (前期：木曜3限) 租税法特論B (後期：木曜3限) 法人税法研究 (後期：水曜2限) 所得税法研究 (前期：木曜4限) 相続税法研究 (前期：火曜2限) 消費税法研究 (後期：木曜4限)	簿記特論 (前期：月曜2限) 財務諸表特論 (後期：火曜3限) 原価計算特論 (前期：火曜3限) 管理会計特論 (後期：火曜3限)	財政学特論 (前期：水曜4限) 地方財政学特論 (後期：木曜4限)					
(C) 専修教員養成プログラム	憲法特論ⅠA (前期：水曜2限) 憲法特論ⅠB (後期：水曜2限)	日本経営史特論 (前期：火曜4限)	経済地理学特論 (前期：火曜2限)					日本古代史特論A (前期：金曜2限) 日本古代史特論B (後期：金曜2限) 哲学・倫理学研究A (前期：火曜5限) 哲学・倫理学研究B (後期：火曜5限) 地域社会特論A (前期：月曜3限) 地域社会特論B (後期：月曜3限)
(D) 知的財産管理プログラム	知的財産法特論A (前期：火曜6限) 知的財産法特論B (後期：火曜6限) 民法特論ⅢA (前期：木曜6限) 民法特論ⅢB (後期：木曜6限)					知的財産権 (夏期集中：予定) 総合技術監理Ⅰ (前期：金曜5限) 総合技術監理Ⅱ (後期：金曜4限)		

(注) 「教育プログラム」受講について

近畿大学大学院法学研究科・経済学研究科・商学研究科・総合理工学研究科・総合文化研究科の上記「教育プログラム(A)～(D)」に列挙される授業科目を受講する場合は、必ず当該大学院生が所属する指導教員及び研究科長の承認(許可)を得なければならない。なお、受講の際は、別紙「他研究科開講科目受講申請書」の手順にしたがって手続きをおこなう。

\* (1) このプログラムの設置科目は当該研究科の履修希望者がいなくても、他研究科からの履修希望があれば開講して下さい。また研究科を問わず、人数による不開講はしないで下さい。(履修希望者0名を除く)

\* (2) ひとつの設置科目に履修希望者が多い場合は、分割して授業するなど各研究科で工夫して開講して下さい。

他研究科開講科目受講申請書

所属指導教員及び所属研究科長の許可を得ましたので、貴研究科の開講する下記科目を履修します。										
所属研究科名			研究科			学年		学籍番号		
ふりがな					性別		履修許可期間（※受講先研究科記入）			
氏名	(姓)		(名)		男	女	令和	年	月	日
生年月日	<input type="checkbox"/> 昭和	<input type="checkbox"/> 平成	年	月	日生	令和	年	月	日	
ふりがな							自宅電話番号			
現住所							携帯電話番号			
履修科目名	科目名	開講期	曜日	時限	単位数	開講研究科名	担当教員名	担当教員確認	研究科長確認	

(注1) この「他研究科開講科目受講申請書」は授業科目を開講する研究科ごとに記入すること。

(注2) 指導教員が当該大学院生の教育、研究上特に必要と認められた場合の他研究科等で取得した授業科目の単位については、各研究科で定めている単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

〔受講申請手続き手順〕

順序	担当者	手続き内容
1	大学院生	受講申請書を所属研究科学生センターから受け取り、所属指導教員に他研究科の授業受講の希望を伝える。
2	大学院生	所属する研究科学生センターへ受講申請書を提出する。
3	所属研究科学生センター	大学院生より提出された受講申請書を、研究科長に連絡の上、受講先の研究科学生センターへ提出する。
4	受講先研究科学生センター	受講申請書が提出されたら、該当の授業担当の教員および研究科長に連絡し、受講可否を確認する。
5	受講先研究科学生センター	大学院生の所属研究科学生センターへ、受講の可否を連絡する。受講可の場合は、履修許可期間を追記する。
6	所属研究科学生センター	受講可の場合は、学生本人へ受講申請書を渡す。（所属研究科学生センターにて履修登録の対応。） 受講否の場合は、学生本人へ口頭にて回答し、受講申請書は所属研究科学生センターにて保管する。
7	大学院生	所属研究科学生センターから受講可通知をうけ、希望した授業を受講する。 受講否の場合も所属研究科学生センターから通知（口頭）をうける。

## 7. 博士前期課程・修士課程 履修計画と学修について

1. 各専攻の履修方法に従い履修科目を計画し、課程の学修を目指す。
2. 履修計画科目で、指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、※他の専攻、他の研究科または、他の大学院および大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、8単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

※他専攻科目を受講する場合は、指導教員の許可が必要となります。申請方法については学生ポータルシステム「UNIVERSAL PASSPORT EX（学内向けwebサービス）」にてお知らせします。学部学生センターへ開講学期の履修登録期間中に履修登録しなければ修了所要単位に認められません。

1年次 履修計画表

期別	曜日	時限	科目名	教員名	単位	開講専攻
通年			特別研究		12	
前期						
後期						

2年次 履修計画表

期別	曜日	時限	科目名	教員名	単位	開講専攻
通年			特別研究		12	
前期						
後期						

学籍番号：

\_\_\_\_\_

氏 名：

\_\_\_\_\_

## (1) 理学専攻 博士前期課程

分野	授 業 科 目	単位数			担 当 教 員
		必修	選択必修	選択	
数 理 解 析	位 相 幾 何 特 論		2		教授 博(理) 佐久間一浩
	微 分 位 相 幾 何 特 論			2	
	多 様 体 特 論		2		教授 博(数理科学) 池田徹
	3 次 元 多 様 体 特 論			2	
	群 論 特 論		2		教授 博(理) 小田文仁
	圏 論 的 表 現 論 特 論			2	
	応 用 代 数 学 特 論		2		教授 博(数理学) 知念宏司
	応 用 数 論 特 論			2	
	超 局 所 解 析 特 論		2		教授 博(数理科学) 松井優
	応 用 代 数 解 析 特 論			2	
	離 散 数 理 特 論		2		教授 博(理) 山下登茂紀
	組 合 せ 数 学 特 論			2	
	計 算 代 数 解 析 特 論		2		教授 博(理) 中村弥生
	多 変 数 留 数 解 析 特 論			2	
	特 殊 関 数 特 論		2		教授 博(理) 鈴木貴雄
	関 数 方 程 式 特 論			2	
	数 論 特 論		2		准教授 博(数理学) 井原健太郎
	ゼ ー タ 関 数 特 論			2	
	結 び 目 理 論 特 論		2		准教授 博(理) 鄭仁大
	低 次 元 ト ポ ロ ジ ー 特 論			2	
整 数 論 特 論		2		准教授 博(数理学) 田坂浩二	
保 型 形 式 特 論			2		
特別研究	数 理 解 析 特 別 研 究	12			各専修科目担当教員
物 理 学	素 粒 子 実 験 学 特 論		2		教授 博(理) 加藤幸弘
	高エネルギー実験物理学特論			2	
	宇 宙 論 特 論		2		教授 博(理) 井上開輝
	観 測 的 宇 宙 論 特 論			2	
	構 造 生 物 物 理 学 特 論		2		教授 博(理) 矢野陽子
	X 線 構 造 解 析 特 論			2	
	量 子 統 計 力 学 特 論		2		教授 博(理) 笠松健一
	量 子 凝 縮 系 物 理 学 特 論			2	
	固 体 電 子 物 理 学 特 論		2		准教授 博(理) 増井孝彦
	超 伝 導 物 理 学 特 論			2	
	分 子 機 械 物 理 学 特 論		2		教授 博(理) 西山雅祥
	生 命 動 態 計 測 特 論			2	
	凝 縮 系 理 論 特 論		2		教授 博(理) 段下一平
	量 子 相 転 移 特 論			2	
	場 の 量 子 論 特 論		2		准教授 博(理) 三角樹弘
	ゲ ー ジ 理 論 特 論			2	
	素 粒 子 現 象 論 特 論		2		准教授 博(理) 大村雄司
	高エネルギー理論物理学特論			2	
	高エネルギー天体物理学特論		2		准教授 博(理) 信川久実子
	高エネルギー天体物理学実験特論			2	
基 礎 物 理 学 講 究		2		(不開講)	

分野	授業科目	単位数			担当教員
		必修	選択必修	選択	
特別研究	物理学特別研究	12			各専修科目担当教員
機能性分子化学	構造物理化学特論		2		教授 博(理) 若林知成
	分子構造化学特論			2	
	有機金属化学特論		2		教授 理博 前川雅彦
	無機機能化学特論			2	
	生物物理化学特論		2		教授 博(理) 神山匡
	生体分子物理化学特論			2	
	生体分子化学特論		2		教授 博(工) 佐賀佳央
	生体反応化学特論			2	
	無機構造化学特論		2		教授 博(理) 杉本邦久
	無機物性化学特論			2	
	分光物性化学特論		2		准教授 博(理) 森澤勇介
	分子分光化学特論			2	
	反応有機化学特論		2		准教授 博(工) 松本浩一
	反応設計学特論			2	
	凝縮系物理化学特論		2		准教授 博(理) 鈴木晴
	物性物理化学特論			2	
	触媒有機化学特論		2		准教授 博(工) 兵藤憲吾
	分子変換化学特論			2	
	光機能性有機化学特論		2		准教授 博(理) 倉持悠輔
	光有機合成化学特論			2	
大気化学特論		2		講師 博(理) 河野七瀬	
環境分析化学特論			2		
無機固体化学特論		2		講師 博(工) 竹入史隆	
無機物質化学特論			2		
特別研究	機能性分子化学特別研究	12			各専修科目担当教員
生物・環境化学	タンパク質科学特論		2		教授 理博 日高雄二
	病理学特論		2		教授 博(医) 辻内俊文
	分子神経生物学特論		2		教授 博(医) 福嶋伸之
	環境微生物学特論		2		教授 博(農) 牧輝弥
	行動内分泌学特論		2		教授 博(水産科学) 加川尚
	ゲノム情報神経学特論		2		臨床教授 博(医) 西郷和真
	免疫分子機能特論		2		教授 博(医) 早坂晴子
	環境生理学特論		2		准教授 博(農) 森山隆太郎
	分子機能解析特論		2		准教授 博(薬) 島本茂
	発生生物学特論		2		講師 博(医) 駒田致和
	分子遺伝学特論		2		非常勤講師 博(理) 木下善仁
	生物データ科学特論		2		講師 博(理) 飯田慶
	遺伝医療特論		2		講師 博(生命科学) 仲間美奈
	生体分子化学・環境化学総論		2		教授 理博 日高雄二 教授 博(農) 牧輝弥 准教授 博(薬) 島本茂 講師 博(医) 駒田致和 講師 博(理) 飯田慶

分野	授 業 科 目	単位数			担 当 教 員
		必修	選択 必修	選択	
生物・環境化学	細胞生物学・医療科学総論		2		准教授 博(農) 森 山 隆太郎 教授 博(医) 辻 内 俊 文 教授 博(医) 福 嶋 伸 之 教授 博(水産科学) 加 川 尚 臨床教授 博(医) 西 郷 和 真 教授 博(医) 早 坂 晴 子
	生物・環境化学特別研究	12			各専修科目担当教員
生物・環境化学	人類遺伝学特論			2	臨床教授 博(医) 西 郷 和 真 非常勤講師 医博 瀬 戸 俊 之 非常勤講師 博(医) 高 屋 雅 彦 非常勤講師 博(医) 中 岡 義 晴
	人類遺伝学演習			2	講師 博(理) 飯 田 慶 教授 理博 日 高 雄 二 教授 博(医) 辻 内 俊 文 教授 博(医) 福 嶋 伸 之 教授 博(水産科学) 加 川 尚 教授 博(農) 牧 輝 弥 教授 博(医) 早 坂 晴 子 准教授 博(農) 森 山 隆太郎 准教授 博(薬) 島 本 茂 講師 博(医) 駒 田 致 和
	遺伝医療と倫理			1	講師 博(生命科学) 仲 間 美 奈 非常勤講師 庵 前 美 智 子 非常勤講師 鹿 嶋 見 奈 非常勤講師 博(薬) 山 内 泰 子 非常勤講師 宮 崎 圭 祐 非常勤講師 二 川 摩 周 非常勤講師 古 川 晋 也
	臨床遺伝学Ⅰ			1	臨床教授 博(医) 西 郷 和 真 准教授 博(薬) 川 下 理 日 人 臨床教授 博(医) 大 磯 直 毅 客員教授 岡 本 伸 彦
	臨床遺伝学Ⅱ			1	講師 博(医) 駒 田 致 和 教授 博(医) 福 嶋 伸 之 非常勤講師 博(医) 宮 崎 彩 子 非常勤講師 医博 高 田 史 男 非常勤講師 博(医) 中 岡 義 晴 非常勤講師 井 田 憲 蔵 非常勤講師 学士(医) 森 内 芳
	遺伝サービス情報学			1	講師 博(理) 飯 田 慶 准教授 博(薬) 川 下 理 日 人 非常勤講師 博(理) 木 下 善 仁
	カウンセリング特論			2	非常勤講師 宮 崎 圭 祐
	臨床腫瘍学Ⅰ			2	臨床教授 博(医) 西 郷 和 真
	臨床腫瘍学Ⅱ			2	臨床教授 博(医) 西 郷 和 真

分野	授 業 科 目	単位数			担 当 教 員
		必修	選択必修	選択	
生物・環境化学	遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ I			1	講師 博(生命科学) 仲間 美奈 非常勤講師 浦川 優作 非常勤講師 増井 薫 非常勤講師 鹿嶋 見奈 非常勤講師 菅原 宏美 非常勤講師 庵前 美智子 非常勤講師 二川 摩周
	遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ II			2	講師 博(生命科学) 仲間 美奈 准教授 博(薬) 川下 理日人 臨床教授 博(医) 西郷 和真 非常勤講師 庵前 美智子 非常勤講師 池川 敦子 非常勤講師 鹿嶋 見奈 非常勤講師 増井 薫 非常勤講師 菅原 宏美 非常勤講師 浦川 優作 非常勤講師 二川 摩周 非常勤講師 小田 いつき
	医 療 特 論			1	講師 博(医) 駒田 致和
	遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ 演 習 (事前講義、ダウン症赤ちゃん体操、合同カンファレンス含む)			4	臨床教授 博(医) 西郷 和真 講師 博(生命科学) 仲間 美奈 客員教授 岡本 伸彦 非常勤講師 松田 圭子 非常勤講師 博(医) 西 恵理子 非常勤講師 博(医) 長谷川 結子 非常勤講師 池川 敦子 非常勤講師 菅原 宏美 非常勤講師 博士(医) 杉江 和馬 非常勤講師 博士(医) 江浦 信之 非常勤講師 博士(医) 坂野 公彦 非常勤講師 博士(医) 岡崎 俊介 非常勤講師 博士(医) 森本 千裕 非常勤講師 博士(医) 和形 麻衣子 非常勤講師 増井 薫
	遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ 実 習			6	臨床教授 博(医) 西郷 和真 講師 博(生命科学) 仲間 美奈 客員教授 岡本 伸彦 非常勤講師 松田 圭子 非常勤講師 博(医) 西 恵理子 非常勤講師 博(医) 長谷川 結子 非常勤講師 池川 敦子 非常勤講師 菅原 宏美 非常勤講師 博士(医) 杉江 和馬 非常勤講師 博士(医) 江浦 信之 非常勤講師 博士(医) 坂野 公彦

分野	授 業 科 目	単位数			担 当 教 員	
		必修	選択 必修	選択		
生物・ 環境化学	遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ 実 習			6	非常勤講師 岡 崎 俊 介 非常勤講師 博士(医) 森 本 千 裕 非常勤講師 博士(医) 和 形 麻 衣 子 非常勤講師 増 井 薫	
		実践科学技術英語演習Ⅰ			1	非常勤講師 中 山 裕 木 子
		実践科学技術英語演習Ⅱ			1	
		実践科学技術英語演習Ⅲ			1	非常勤講師 中 山 裕 木 子 教授 Ph. D. ルドルフ ナサニエル ジョン
実践科学技術英語演習Ⅳ		1				
共 通	学 際 研 究			2		
	課 外 セ ミ ナ ー			2		
	特 別 講 義			2	教授 博(工) 納 富 昭 弘	
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目(センター科目)			2		

#### 〈履修方法〉

- 2年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した1科目講義2単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらに生物・環境化学分野を専修科目とする学生は「生体分子化学・環境化学総論」又は「細胞生物学・医療科学総論」の2単位を含め、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から16単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。
- 指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、8単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

## 遺伝カウンセラー養成課程

理学専攻の生物・環境化学分野内に設置されている遺伝カウンセラー養成課程を修了すると、修士（理学）の学位に加えて、日本人類遺伝学会と日本遺伝カウンセリング学会が共同で設置している認定遺伝カウンセラー制度委員会が実施する認定試験の受験資格を取得することができます。この試験に合格すると両学会から遺伝カウンセラーとして認定されます。遺伝カウンセラーとは、医療の現場で遺伝にかかわる悩みや心配を抱えている人達に適切な情報を提供し、カウンセリングを通して、彼らが自律的な判断を下すのを支援する保健医療の専門職です。

下表に示しているように、この課程で専修科目として選択できる科目は13科目あります。専修科目の担当教員に従って行われる特別研究を含む17の必修科目のすべて（44単位）と専修科目13科目のうち1単位（2単位）以上の履修がこの課程の修了条件です。

なお、この課程で開講されている講義科目は総合理工学研究科の院生であれば誰でも履修できますが、演習科目は受講できません。また、養成課程以外の院生は、博士前期課程途中で遺伝カウンセラー養成課程に編入することはできません。

授 業 科 目	講義 内容	単 位 数			専修 科目
		必修	選択 必修	選択	
分 子 遺 伝 学 特 論	講義	2			○
人 類 遺 伝 学 特 論	講義	2			
人 類 遺 伝 学 演 習	演習	2			
遺 伝 医 療 特 論	講義	2			○
遺 伝 医 療 と 倫 理	演習	1			
遺 伝 サ ー ビ ス 情 報 学	演習	1			
臨 床 遺 伝 学 I	講義	1			
臨 床 遺 伝 学 II	演習	1			
カ ウ ン セ リ ン グ 特 論	講義	2			
臨 床 腫 瘍 学 I	講義	2			
臨 床 腫 瘍 学 II	講義	2			
遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ I	講義	1			
遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ II	演習	2			
医 療 特 論	講義	1			
遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ 演 習 ( 合 同 カ ン ファ レ ン ス )	演習	4			
遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ 実 習	演習	6			
生 物 ・ 環 境 化 学 特 別 研 究	演習	12			
タ ン バ ク 質 科 学 特 論	講義		2		○
病 理 学 特 論	講義		2		○
分 子 神 經 生 物 学 特 論	講義		2		○
環 境 微 生 物 学 特 論	講義		2		○
行 動 内 分 泌 学 特 論	講義		2		○
免 疫 分 子 機 能 特 論	講義		2		○
発 生 生 物 学 特 論	講義		2		○
ゲ ノ ム 情 報 神 經 学 特 論	講義		2		○
環 境 生 理 学 特 論	講義		2		○
分 子 機 能 解 析 特 論	講義		2		○
生 物 デ ー タ 科 学 特 論	講義		2		○
28 科 目		44	22		

## (2) 物質系工学専攻 博士前期課程

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
		必修	選択 必修	選択	
分子プロセス工学	表面設計化学特論		2		教授 博(工) 古南 博
	生体機能物質化学特論		2		教授 博(工) 北松 瑞生
	応用材料プロセス工学特論		2		准教授 博(工) 杉目 恒志
	物質変換工学特論		2		准教授 博(工) 室山 広樹
	触媒材料化学特論		2		准教授 博(工) 田中 淳皓
	触媒反応工学特論		2		講師 博(工) 山本 旭
複合物質工学	応用無機物質化学特論		2		教授 博(理) 松尾 司
	応用複合物質化学特論		2		准教授 博(理) 仲程 司
	有機巨大物質化学特論		2		准教授 博(工) 石船 学
	応用有機物質化学特論		2		准教授 博(工) 松井 英雄
	物質機能化学特論		2		講師 博(工) 朝倉 博行
材料創成工学	無機材料化学特論		2		教授 博(工) 岩崎 光伸
	応用有機構造化学特論		2		教授 博(工) 今井 喜胤
	無機機能物質化学特論		2		准教授 博(工) 副島 哲朗
	固体材料化学特論		2		准教授 博(理) 藤島 武蔵
	ナノ材料創生化学特論		2		教授 博(工) 中野 秀之
	セラミックス創成化学特論		2		准教授 博(理) 岡 研吾
特別研究	物質系工学特別研究	12			各専修科目担当教員
専門基礎科目	物質工学総論(物理化学分野)	2			教授 博(工) 古南 博 准教授 博(工) 杉目 恒志 准教授 博(工) 室山 広樹
	物質工学総論(有機化学分野)	2			教授 博(工) 今井 喜胤 教授 博(工) 松尾 司 准教授 博(工) 石船 学
	物質工学総論(無機化学分野)	2			教授 博(工) 岩崎 光伸 教授 博(工) 中野 秀之 准教授 博(工) 副島 哲朗
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1	非常勤講師 中山 裕木子
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1	
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1	非常勤講師 中山 裕木子 教授 Ph. D. ルドルフ ナサニエル ジョン
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1	
	学際研究			2	
	課外セミナー			2	
	特別講義			2	教授 博(工) 納富 昭弘
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目(センター科目)			2	

## 〈履修方法〉

- 2年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した1科目講義2単位(これをその学生の専修科目とする。)と特別研究12単位を必修とし、さらに専門基礎科目6単位、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。
- 指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪(センター科目)から修得した授業科目の単位については、8単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

## (3) メカニクス系工学専攻 博士前期課程

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
		必修	選択 必修	選択	
材料・プロセス・ 材料強度学	固体力学特論		2		教授 博(工) 坂田 誠一郎
	破壊力学特論		2		教授 博(工) 和田 義孝
	複合材料プロセス工学特論		2		教授 博(工) 浅野 和典
	信頼性工学特論		2		准教授 博(工) 穴戸 信之
	材料加工プロセス工学特論		2		(不開講)
エネルギー・ 流れ	熱エネルギーシステム工学特論		2		教授 博(工) 澤井 徹
	流体工学特論		2		教授 博(工) 道岡 武信
	内燃機関工学特論		2		准教授 博(工) 瀬尾 健彦
	流体力学特論		2		講師 博(工) 橋本 知久
機力・ 制御	システム制御工学特論		2		教授 博(工) 小坂 学
	精密機械工学特論		2		教授 博(工) 原田 孝
	ロボット構成学特論		2		准教授 博(工) 大坪 義一
	機械振動学特論		2		准教授 博(工) 田浦 裕生
設計・ 生産加工	創製加工学特論		2		教授 博(工) 西 藪 和明
	機械機能設計特論		2		准教授 博(エネルギー科学) 梶原 伸治
	先端加工システム工学特論		2		准教授 博(工) 藤田 隆
	ヒューマンマシンインタフェース特論		2		准教授 博(工) 谷田 公二
特別研究	メカニクス系工学特別研究	12			各専修科目担当教員
専門基礎科目	メカニクス系学際講義Ⅰ 材料・プロセス・材料強度学分野		2		教授 博(工) 坂田 誠一郎 教授 博(工) 和田 義孝 教授 博(工) 浅野 和典 准教授 博(工) 穴戸 信之
	メカニクス系学際講義Ⅱ エネルギー・流れ分野		2		教授 博(工) 淵端 学 教授 博(工) 澤井 徹 教授 博(工) 道岡 武信 准教授 博(工) 瀬尾 健彦 講師 博(工) 橋本 知久
	メカニクス系学際講義Ⅲ 機力・制御分野		2		教授 博(工) 小坂 学 教授 博(工) 原田 孝 准教授 博(工) 大坪 義一 准教授 博(工) 池田 篤俊
	メカニクス系学際講義Ⅳ 設計・生産加工分野		2		教授 博(工) 西 藪 和明 准教授 博(エネルギー科学) 梶原 伸治 准教授 博(工) 田浦 裕生 准教授 博(工) 藤田 隆 准教授 博(工) 谷田 公二
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1	非常勤講師 中山 裕木子
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1	
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1	非常勤講師 中山 裕木子 教授 Ph. D. ルドルフ ナサニエル ジョン
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1	
	学際研究			2	
	課外セミナー			2	
	特別講義			2	教授 博(工) 納 富 昭 弘
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目(センター科目)			2	

〈履修方法〉

1. 2年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した1科目講義2単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらにメカニクス系学際講義Ⅰ～Ⅳから6単位、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。
2. 指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院および大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、8単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

## (4) エレクトロニクス系工学専攻 博士前期課程

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員	
		必修	選択 必修	選択		
計測・情報システム	応 用 光 学 特 論		2		教授 博(工)	吉 田 実
	医 療 情 報 処 理 特 論		2		教授 博(医)	大 星 直 樹
	大 気 電 気 学 特 論		2		教授 博(工)	森 本 健 志
	集 積 シ ス テ ム 設 計 特 論		2		教授 博(工)	武 内 良 典
	情 報 シ ス テ ム 工 学 特 論		2		教授 博(工)	湯 本 真 樹
	機 能 性 デ バ イ ス 特 論		2		教授 博(理)	松 田 時 宜
	フ ォ ト ニ ク ス 工 学 特 論		2		准教授 博(工)	吉 田 周 平
	量 子 情 報 デ バ イ ス 特 論		2		准教授 博(科学)	大 西 紘 平
	光 ・ 音 響 工 学 特 論		2		講師 博(工)	津 山 美 穂
	光 情 報 通 信 特 論		2		講師 博(工)	堤 康 宏
材料・デバイス	レ ー ザ ー 工 学 特 論		2		教授 博(工)	中 野 人 志
	材 料 プ ロ セ ス 工 学 特 論		2		教授 博(工)	松 谷 貴 臣
	C A E - A I 特 論		2		准教授 博(工)	菅 原 賢 悟
	光 半 導 体 パ ッ ケ ー ジ ン グ 特 論		2		准教授 博(工)	柏 尾 知 明
	光 情 報 材 料 特 論		2		准教授 博(工)	中 山 敬 三
	パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス 特 論		2		准教授 博(工)	南 政 孝
特別研究	エレクトロニクス系工学特別研究	12			各専修科目担当教員	
専門基礎科目	計測・情報システム専門基礎		2		教授 博(理) 准教授 博(工) 講師 博(工)	松 田 時 宜 吉 田 周 平 津 山 美 穂
	材料・デバイス専門基礎		2		教授 博(工) 准教授 博(工) 准教授 博(工)	松 谷 貴 臣 菅 原 賢 悟 南 政 孝
共通	実 践 科 学 技 術 英 語 演 習 I			1	非常勤講師	中 山 裕 木 子
	実 践 科 学 技 術 英 語 演 習 II			1		
	実 践 科 学 技 術 英 語 演 習 III			1	非常勤講師	中 山 裕 木 子
	実 践 科 学 技 術 英 語 演 習 IV			1		
	学 際 研 究			2	教授 Ph. D.	ルドルフ ナサニエル ジョン
	課 外 セ ミ ナ ー			2		
	特 別 講 義			2	教授 博(工)	納 富 昭 弘
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目(センター科目)			2		

## 〈履修方法〉

- 2年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した1科目講義2単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位、及び専修科目が属する分野の専門基礎科目1科目講義2単位を必修とし、さらに選択必修科目、選択科目の中から14単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。
- 指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪(センター科目)から修得した授業科目の単位については、8単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

(5) 環境系工学専攻 博士前期課程

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
		必修	選択 必修	選択	
地球・社会環境工学	水 工 学 特 論		2		教授 博(工) 竹 原 幸 生
	環 境 流 体 力 学 特 論			2	
	環 境 生 物 科 学 特 論		2		教授 博(理) 松 井 一 彰
	環 境 微 生 物 学 特 論			2	
	環 境 計 測 学 特 論		2		准教授 博(工) 高 野 保 英
	水 文 計 測 特 論			2	
	海 岸 ・ 港 湾 工 学 特 論		2		准教授 博(工) 高 島 知 行
	沿 岸 防 災 工 学 特 論			2	
都市・居住環境計画	景 観 論 特 論		2		教授 博(工) 岡 田 昌 彰
	景 観 工 学 特 論			2	
	福 祉 環 境 デ ザ イ ン 特 論		2		教授 博(工) 柳 原 崇 男
	地 域 交 通 特 論			2	
構造・材料・地盤工学	複 合 構 造 学 特 論		2		教授 博(工) 東 山 浩 士
	メ イ ン テ ナ ンス 工 学 特 論			2	
	地 盤 材 料 学 特 論		2		教授 博(工) 河 井 克 之
	地 盤 環 境 学 特 論			2	
	環 境 材 料 学 特 論		2		教授 博(工) 麓 隆 行
	材 料 物 性 工 学 特 論			2	
	材 料 力 学 特 論		2		教授 Ph. D. 沖 中 知 雄
	破 壊 力 学 特 論			2	
	地 盤 安 全 工 学 特 論		2		講師 博(工) 中 島 晃 司
地 盤 情 報 学 特 論			2		
特別研究	環 境 系 工 学 特 別 研 究	12			各専修科目担当教員
基礎科目	環 境 系 工 学 専 門 基 礎 I	2			各専修科目担当教員
	環 境 系 工 学 専 門 基 礎 II	2			各専修科目担当教員
共通	実 践 科 学 技 術 英 語 演 習 I			1	非常勤講師 中 山 裕 木 子
	実 践 科 学 技 術 英 語 演 習 II			1	
	実 践 科 学 技 術 英 語 演 習 III			1	非常勤講師 中 山 裕 木 子 教授 Ph. D. ルドルフ ナサニエル ジョン
	実 践 科 学 技 術 英 語 演 習 IV			1	
	学 際 研 究			2	
	課 外 セ ミ ナ ー			2	
	特 別 講 義			2	教授 博(工) 納 富 昭 弘
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目(センター科目)			2	

〈履修方法〉

- 2年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した1科目講義2単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらに専門基礎科目4単位、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から12単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。
- 指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、8単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

(6) エネルギー工学専攻 修士課程

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
		必修	選択必修	選択	
次世代インフラエネルギー理工学	熱エネルギー変換工学特論		2		教授 博(工) 渕 端 学
	核反応エネルギー工学特論		2		教授 博(理) 有 友 嘉 浩
	エネルギー環境材料科学特論		2		教授 博(工) 大 塚 哲 平
	プラズマ工学特論		2		准教授 博(理) 武 村 祐 一 朗
	放射線防護学特論		2		教授 博(工) 山 西 弘 城
	放射線安全工学特論		2		客員教授 医博 杉 浦 紳 之
	放射線工学特論		2		教授 博(工) 若 林 源 一 郎
	放射線応用学特論		2		教授 博(工) 山 田 崇 裕
	放射線計測学特論		2		准教授 博(工) 芳 原 新 也
	原子炉物理学特論		2		准教授 博(工) 佐 野 忠 史
	中性子工学特論			2	准教授 博(工) 佐 野 忠 史
	再生可能エネルギー・環境工学特論		2		教授 博(工) 井 田 民 男
マテリアル理工学 エネルギー	原子核化学特論		2		教授 博(工) 野 上 雅 伸
	光電子機能化学特論		2		教授 博(理) 大 久 保 貴 志
	有機材料化学特論		2		教授 博(工) 中 井 英 隆
	有機エレクトロニクス特論		2		准教授 博(理) 田 中 仙 君
	量子物質工学特論		2		准教授 博(理) 鬼 頭 宏 任
エネルギー理工学 ライフデバイス	高分子合成化学特論		2		教授 博(工) 須 藤 篤
	生体計測工学特論		2		准教授 博(工) 池 田 篤 俊
	計算生体物質科学特論		2		准教授 博(薬) 川 下 理 日 人
	細胞分子工学特論		2		准教授 博(医) 今 野 大 治 郎
メカノバイオロジー特論		2		講師 博(工) 中 澤 直 高	
特別研究	エネルギー理工学特別研究	12			各専修科目担当教員
専門基礎科目	エネルギー理工学総合演習1	1			教授 博(理) 大 久 保 貴 志
	エネルギー理工学総合演習2	1			教授 博(理) 大 久 保 貴 志
	次世代インフラエネルギー理工学総論		2		教授 博(工) 渕 端 学 教授 博(理) 有 友 嘉 浩 教授 博(工) 大 塚 哲 平 教授 博(工) 山 田 崇 裕 准教授 博(理) 武 村 祐 一 朗
	エネルギーマテリアル理工学総論		2		教授 博(工) 野 上 雅 伸 教授 博(理) 大 久 保 貴 志 教授 博(工) 中 井 英 隆 准教授 博(理) 田 中 仙 君 准教授 博(理) 鬼 頭 宏 任
	ライフデバイスエネルギー理工学総論		2		教授 博(工) 須 藤 篤 准教授 博(工) 池 田 篤 俊 准教授 博(薬) 川 下 理 日 人 准教授 博(医) 今 野 大 治 郎 講師 博(工) 中 澤 直 高
	共通	実践科学技術英語演習Ⅰ		1	非常勤講師 中 山 裕 木 子
	実践科学技術英語演習Ⅱ		1		
	実践科学技術英語演習Ⅲ		1	非常勤講師 中 山 裕 木 子	
	実践科学技術英語演習Ⅳ		1	教授 Ph. D. ルドルフ ナサニエル ジョン	

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
		必修	選択 必修	選択	
共 通	学 際 研 究			2	
	課 外 セ ミ ナ ー			2	
	特 別 講 義			2	教授 博(工) 納 富 昭 弘
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目(センター科目)			2	

〈履修方法〉

1. 2年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した1科目講義2単位（これをその学生の専修科目とする。）、特別研究12単位、専修科目が属する分野の専門基礎科目1科目講義2単位、並びに専門基礎科目2科目演習2単位を必修とし、さらに選択必修科目、選択科目の中から12単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。
2. 指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、8単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

## (7) 東大阪モノづくり専攻 博士前期課程

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
		必修	選択 必修	選択	
専 修	レーザープロセッシング特論		2		教授 博(工) 中野 人志
	機能性物質開発特論		2		准教授 博(薬) 川下 理日人
	精密生産工学特論		2		教授 博(工) 原田 孝
	ナノテクノロジー特論		2		教授 博(工) 古南 博
	創製加工プロセス工学特論		2		教授 博(工) 西籾 和明
	ビーム応用工学特論		2		教授 博(工) 松谷 貴臣
	マテリアルテクノロジクス特論		2		教授 博(工) 岩崎 光伸
	コンピュータ援用工学特論		2		講師 博(工) 橋本 知久
	エネルギー材料科学特論		2		教授 博(工) 大塚 哲平
	光半導体パッケージング設計特論		2		准教授 博(工) 柏尾 知明
基 礎	地場産業組織論Ⅰ			2	教授 博(経営学) 芦塚 格
	地場産業組織論Ⅱ			2	教授 博(経営学) 芦塚 格
	知的財産権			2	非常勤講師 博(工) 吉田 昌靖
	総合技術監理Ⅰ			2	非常勤講師 古川 功
	総合技術監理Ⅱ			2	
	産業倫理			2	非常勤講師 根岸 和政
	コミュニケーションスキル			2	
	知的財産管理技法特論			2	
先端技術特論			2	(不開講)	
国際	国際インターンシップ			2	各専修科目担当教員
特別	東大阪モノづくり特別研究	16			各専修科目担当教員
	東大阪モノづくり特別演習	4			各専修科目担当教員
共 通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1	非常勤講師 中山 裕木子
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1	
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1	非常勤講師 中山 裕木子 教授 Ph. D. ルドルフ ナサニエル ジョン
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1	
	学際研究			2	全教員
	課外セミナー			2	全教員
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目(センター科目)			2	

## 〈履修方法〉

- 2年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した1科目講義2単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究16単位（この担当者をその学生の指導教員とする。）および特別演習4単位を必修し、さらに専修科目以外の授業科目の中より14単位以上、合計36単位以上を修得する。
- 指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科または、他の大学院および大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、所定の単位数に充当することができる。
- 「基礎」の授業科目の中から6単位以上を修得しなければならない。
- 「共通」の授業科目の中から2単位以上を修得しなければならない。

## 8. 博士後期課程 学修について

### (1) 理学専攻 博士後期課程

授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
	必修	選択 必修	選択	
位相幾何特殊研究		8		教授 博(理) 佐久間 一 浩
多様体特殊研究		8		教授 博(数理科学) 池田 徹
群論特殊研究		8		教授 博(理) 小田 文 仁
応用代数学特殊研究		8		教授 博(数理学) 知念 宏 司
超局所解析特殊研究		8		教授 博(数理科学) 松井 優
離散数学特殊研究		8		教授 博(理) 山下 登茂紀
計算代数解析特殊研究		8		教授 博(理) 中村 弥 生
特殊関数特殊研究		8		教授 博(理) 鈴木 貴 雄
素粒子実験学特殊研究		8		教授 博(理) 加藤 幸 弘
宇宙論特殊研究		8		教授 博(理) 井上 開 輝
構造生物物理学特殊研究		8		教授 博(理) 矢野 陽 子
量子統計力学特殊研究		8		教授 博(理) 笠松 健 一
固体電子物理学特殊研究		8		准教授 博(理) 増井 孝 彦
分子機械物理学特殊研究		8		教授 博(理) 西山 雅 祥
凝縮系理論特殊研究		8		教授 博(理) 段下 一 平
場の量子論特殊研究		8		准教授 博(理) 三角 樹 弘
素粒子現象論特殊研究		8		准教授 博(理) 大村 雄 司
高エネルギー天体物理学特殊研究		8		准教授 博(理) 信川 久 実子
有機金属化学特殊研究		8		教授 理博 前川 雅 彦
構造物理化学特殊研究		8		教授 博(理) 若林 知 成
生体分子化学特殊研究		8		教授 博(工) 佐賀 佳 央
生物物理化学特殊研究		8		教授 博(理) 神山 匡
光電子機能化学特殊研究		8		教授 博(理) 大久保 貴 志
無機構造化学特殊研究		8		教授 博(理) 杉本 邦 久
分光物性化学特殊研究		8		准教授 博(理) 森澤 勇 介
病理学特殊研究		8		教授 博(医) 辻内 俊 文
タンパク質科学特殊研究		8		教授 理博 日高 雄 二
分子神経生物学特殊研究		8		教授 博(医) 福嶋 伸 之
大気環境微生物学特殊研究		8		教授 博(農) 牧 輝 弥
行動内分泌学特殊研究		8		教授 博(水産科学) 加川 尚
臨床遺伝学特殊研究		8		臨床教授 博(医) 西郷 和 真
免疫分子機能特殊研究		8		教授 博(医) 早坂 晴 子
数 理 解 析 演 習			2	教授 博(理) 佐久間 一 浩 教授 博(数理科学) 池田 徹 教授 博(理) 小田 文 仁 教授 博(数理学) 知念 宏 司 教授 博(数理科学) 松井 優 教授 博(理) 山下 登茂紀 教授 博(理) 中村 弥 生 教授 博(理) 鈴木 貴 雄

授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
	必修	選択 必修	選択	
物 理 学 演 習			2	教授 博(理) 加藤 幸弘 教授 博(理) 井上 開輝 教授 博(理) 矢野 陽子 教授 博(理) 笠松 健一 准教授 博(理) 増井 孝彦 教授 博(理) 西山 雅祥 教授 博(理) 段下 一平 准教授 博(理) 三角 樹弘 准教授 博(理) 大村 雄司 准教授 博(理) 信川 久実子
機 能 性 分 子 化 学 演 習			2	教授 理博 前川 雅彦 教授 博(理) 若林 知成 教授 博(工) 佐賀 佳央 教授 博(理) 神山 匡 教授 博(理) 大久保 貴志 教授 博(理) 杉本 邦久 准教授 博(理) 森澤 勇介
生 物 ・ 環 境 化 学 演 習			2	教授 理博 日高 雄二 教授 博(医) 辻内 俊文 教授 博(医) 福島 伸之 教授 博(農) 牧 輝弥 教授 博(水産科学) 加川 尚 臨床教授 博(医) 西郷 和真 教授 博(医) 早坂 晴子
大学の授業設計と実践方法			2	准教授 博(人間科学) 竹中 喜一
ジョブ型研究インターンシップ			2	教授 博(工) 森本 健志
コミュニケーションスキル演習			1	教授 博(工) 森本 健志
実学コラボレーション演習			2	教授 博(工) 森本 健志
博士リテラシー			2	教授 博(工) 森本 健志

〈履修方法〉

1. 3年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した1科目8単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から2単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

## (2) 物質系工学専攻 博士後期課程

授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員		
	必修	選択 必修	選択			
表面設計化学特殊研究		8		教授 博(工)	古 南	博
有機巨大物質化学特殊研究		8		准教授 博(工)	石 船	学
無機材料化学特殊研究		8		教授 博(工)	岩 崎	光 伸
応用有機物質化学特殊研究		8		准教授 博(工)	松 井	英 雄
有機材料化学特殊研究		8		教授 博(工)	中 井	英 隆
高分子合成化学特殊研究		8		教授 博(工)	須 藤	篤
応用無機物質化学特殊研究		8		教授 博(理)	松 尾	司
応用有機構造化学特殊研究		8		教授 博(工)	今 井	喜 胤
生体機能物質化学特殊研究		8		教授 博(工)	北 松	瑞 生
ナノ材料創生化学特殊研究		8		教授 博(工)	中 野	秀 之
無機機能物質化学特殊研究		8		准教授 博(工)	副 島	哲 朗
分子プロセス工学演習			2	教授 博(工)	古 南	博
				教授 博(工)	北 松	瑞 生
複合物質工学演習			2	教授 博(理)	松 尾	司
				准教授 博(工)	石 船	学
材料創成工学演習			2	教授 博(工)	岩 崎	光 伸
				教授 博(工)	須 藤	篤
				教授 博(工)	今 井	喜 胤
				教授 博(工)	中 井	英 隆
				准教授 博(工)	副 島	哲 朗
大学の授業設計と実践方法			2	准教授 博(人間科学)	竹 中	喜 一
ジョブ型研究インターンシップ			2	教授 博(工)	森 本	健 志
コミュニケーションスキル演習			1	教授 博(工)	森 本	健 志
実学コラボレーション演習			2	教授 博(工)	森 本	健 志
博士リテラシー			2	教授 博(工)	森 本	健 志

## 〈履修方法〉

- 3年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した1科目8単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から2単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

## (3) メカニクス系工学専攻 博士後期課程

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
		必修	選択 必修	選択	
材料 工学 材料強 度学	固体力学特殊研究		8		教授 博(工) 坂田 誠一郎
	破壊力学特殊研究		8		教授 博(工) 和田 義孝
	複合材料プロセス工学特殊研究		8		教授 博(工) 浅野 和典
エ ネ ル ギ ー ・ 流 れ	再生可能エネルギー・環境特殊研究		8		教授 博(工) 井田 民男
	熱工学特殊研究		8		教授 博(工) 淵 端 学
	熱エネルギーシステム工学特殊研究		8		教授 博(工) 澤 井 徹
	流体工学特殊研究		8		教授 博(工) 道 岡 武 信
機 力 ・ 制 御	システム制御工学特殊研究		8		教授 博(工) 小 坂 学
	精密機械工学特殊研究		8		教授 博(工) 原 田 孝
設 計 ・ 生 産 加 工	創製加工学特殊研究		8		教授 博(工) 西 藪 和 明
演 習 科 目	材料・プロセッシング・材料強度学演習			2	教授 博(工) 坂田 誠一郎 教授 博(工) 和田 義孝 教授 博(工) 浅野 和典
		エネ ルギ ー ・ 流 れ 演 習		2	教授 博(工) 井田 民男 教授 博(工) 淵 端 学 教授 博(工) 澤 井 徹 教授 博(工) 道 岡 武 信
			機 力 ・ 制 御 演 習		2
	設 計 ・ 生 産 加 工 演 習				2
大 学 の 授 業 設 計 と 実 践 方 法			2	准教授 博(人間科学) 竹 中 喜 一	
ジ ョ ブ 型 研 究 イ ン タ ー ン シ ッ プ			2	教授 博(工) 森 本 健 志	
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス キ ル 演 習			1	教授 博(工) 森 本 健 志	
実 学 コ ラ ボ レ ー シ ョ ン 演 習			2	教授 博(工) 森 本 健 志	
博 士 リ テ ラ シ ー			2	教授 博(工) 森 本 健 志	

## 〈履修方法〉

- 3年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した1科目8単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から2単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

## (4) エレクトロニクス系工学専攻 博士後期課程

授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員			
	必修	選択 必修	選択				
数理情報工学特殊研究		8		教授 博(工)	田 川 聖 治		
レーザー工学特殊研究		8		教授 博(工)	中 野 人 志		
環境情報特殊研究		8		教授 博(工)	佐 野 到		
応用光学特殊研究		8		教授 博(工)	吉 田 実		
放射線防護学特殊研究		8		教授 博(工)	山 西 弘 城		
医療情報処理特殊研究		8		教授 博(医)	大 星 直 樹		
ネットワーク特殊研究		8		教授 博(工)	井 口 信 和		
原子核化学特殊研究		8		教授 博(工)	野 上 雅 伸		
大気電気学特殊研究		8		教授 博(工)	森 本 健 志		
集積システム設計特殊研究		8		教授 博(工)	武 内 良 典		
材料プロセス工学特殊研究		8		教授 博(工)	松 谷 貴 臣		
情報システム工学特殊研究		8		教授 博(工)	湯 本 真 樹		
放射線工学特殊研究		8		教授 博(工)	若 林 源 一 郎		
核反応エネルギー工学特殊研究		8		教授 博(理)	有 友 嘉 浩		
医用画像情報処理特殊研究		8		教授 工博 博(医)	木 村 裕 一		
エネルギー環境材料科学特殊研究		8		教授 博(工)	大 塚 哲 平		
放射線応用学特殊研究		8		教授 博(工)	山 田 崇 裕		
機能性デバイス特殊研究		8		教授 博(理)	松 田 時 宜		
計算知能特殊研究		8		教授 博(情報学)	半 田 久 志		
システムデザイン論特殊研究		8		教授 博(情報学)	須 藤 秀 紹		
バーチャルインタラクション特殊研究		8		教授 博(情報学)	中 西 英 之		
情報セキュリティ特殊研究		8		教授 博(工)	毛 利 公 美		
知的通信網特殊研究		8		教授 博(情報科学)	谷 口 義 明		
知的メディア情報処理特殊研究		8		教授 博(工)	阿 部 孝 司		
コンピュータビジョン特殊研究		8		教授 博(情報学)	波 部 齊		
光半導体パッケージング特殊研究		8		准教授 博(工)	柏 尾 知 明		
原子炉物理学特殊研究		8		准教授 博(工)	佐 野 忠 史		
放射線計測学特殊研究		8		准教授 博(工)	芳 原 新 也		
フォトニクス工学特殊研究		8		准教授 博(工)	吉 田 周 平		
量子情報デバイス特殊研究		8		准教授 博(科学)	大 西 紘 平 孝		
パワーエレクトロニクス特殊研究		8		准教授 博(工)	南 政 孝		
C A E - A I 工学特殊研究		8		准教授 博(工)	菅 原 賢 悟		
大規模情報処理システム特殊研究		8		准教授 博(工)	水 谷 后 宏 治		
計 測 ・ 情 報 シ ス テ ム 演 習			2	教授 博(工)	田 川 聖 治		
				教授 博(工)	佐 野 到		
				教授 博(工)	吉 田 実		
				教授 博(工)	井 口 信 和		
				教授 博(工)	森 本 健 志		
				教授 工博 博(医)	木 村 裕 一		
				教授 博(情報学)	半 田 久 志		
材 料 ・ デ バ イ ス 演 習			2	教授 博(工)	中 野 人 志		
				教授 博(工)	松 谷 貴 臣		
原 子 エ ネ ル ギ ー 演 習			2	教授 博(工)	野 上 雅 伸		
				教授 博(理)	有 友 嘉 浩		
大学 学 科 演 習			2	准教授 博(人間科学)	竹 中 喜 一		
ジョブ型研究インターンシップ			2	教授 博(工)	森 本 健 志		
コミュニケーションスキル演習			1	教授 博(工)	森 本 健 志		
実学コラボレーション演習			2	教授 博(工)	森 本 健 志		
博士リテラシー			2	教授 博(工)	森 本 健 志		

## 〈履修方法〉

- 3年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した1科目8単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から2単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

## (5) 環境系工学専攻 博士後期課程

授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
	必修	選択 必修	選択	
環境システム特殊研究		8		(不開講)
水工学特殊研究		8		教授 博(工) 竹原幸生
空間理論特殊研究		8		教授 博(工) 奥富利幸
建築コンクリート構造学特殊研究		8		教授 博(工) 岸本一蔵
都市計画学特殊研究		8		教授 博(工) 脇田祥尚
建築振動工学特殊研究		8		教授 博(工) 岩田範生
景観論特殊研究		8		教授 博(工) 岡田昌彰
複合構造学特殊研究		8		教授 博(工) 東山浩士
耐風構造工学特殊研究		8		教授 博(工) 野田博
居住福祉学特殊研究		8		教授 博(工) 山口健太郎
環境生物学特殊研究		8		教授 博(理) 松井一彰
地盤材料学特殊研究		8		教授 博(工) 河井克之
建設材料学特殊研究		8		教授 博(工) 麓隆行
材料力学特殊研究		8		教授 Ph. D. 沖中知雄
建築環境工学特殊研究		8		教授 Ph. D. 安福勝
建築・都市再生デザイン特殊研究		8		教授 博(工) 宮部浩幸
鋼構造特殊研究		8		教授 博(工) 松宮智央
福祉環境・交通計画特殊研究		8		教授 博(工) 柳原崇男
海岸・港湾工学特殊研究		8		准教授 博(工) 高畠知行
建築・都市音環境特殊研究		8		教授 博(工) 平栗靖浩
建築環境設備計画特殊研究		8		教授 博(工) 長澤康弘
地球・人間環境工学演習			2	教授 博(工) 竹原幸生
				教授 博(理) 松井一彰
				准教授 博(工) 高畠知行
都市・居住環境計画演習			2	教授 博(工) 岡田昌彰
				教授 博(工) 宮部浩幸
				教授 博(工) 柳原崇男
				教授 博(工) 平栗靖浩
構造工学演習			2	教授 博(工) 岸本一蔵
				教授 博(工) 東山浩士
				教授 博(工) 松宮智央
耐風・耐震工学演習			2	教授 博(工) 岩田範生
				教授 博(工) 野田博
材料・地盤工学演習			2	教授 博(工) 河井克之
				教授 博(工) 麓隆行
				教授 Ph. D. 沖中知雄
大学の授業設計と実践方法			2	准教授 博(人間科学) 竹中喜一
ジョブ型研究インターンシップ			2	教授 博(工) 森本健志
コミュニケーションスキル演習			1	教授 博(工) 森本健志
実学コラボレーション演習			2	教授 博(工) 森本健志
博士リテラシー			2	教授 博(工) 森本健志

## 〈履修方法〉

1. 3年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した1科目8単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から2単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

(6) 東大阪モノづくり専攻 博士後期課程

分野	授 業 科 目	単 位 数			担 当 教 員
		必修	選択必修	選択	
専修科目	レーザープロセッシング特講		2		教授 博(工) 中野人志
	レーザープロセッシング特殊研究		8		
	精密生産工学特講		2		教授 博(工) 原田孝
	精密生産工学特殊研究		8		
	ナノテクノロジー特講		2		教授 博(工) 古南博
	ナノテクノロジー特殊研究		8		
	ビーム応用工学特講		2		教授 博(工) 松谷貴臣
	ビーム応用工学特殊研究		8		
	創製加工プロセス特講		2		教授 博(工) 西藪和明
	創製加工プロセス特殊研究		8		
	マテリアルテクニクス特講		2		教授 博(工) 岩崎光伸
	マテリアルテクニクス特殊研究		8		
	光半導体パッケージング設計特講		2		准教授 博(工) 柏尾知明
	光半導体パッケージング設計特殊研究		8		
	エネルギー材料科学特講		2		教授 博(工) 大塚哲平
	エネルギー材料科学特殊研究		8		
演習科目	東大阪モノづくり演習(マテリアルズ)		4		教授 博(工) 古南博 教授 博(工) 西藪和明
	東大阪モノづくり演習(計測・制御)		4		教授 博(工) 中野人志 教授 博(工) 松谷貴臣 准教授 博(工) 柏尾知明
	東大阪モノづくり演習(メカトロニクス)		4		教授 博(工) 原田孝
	博士学際研究			2	全教員
	大学の授業設計と実践方法			2	准教授 博(人間科学) 竹中喜一
	ジョブ型研究インターンシップ			2	教授 博(工) 森本健志
	コミュニケーションスキル演習			1	教授 博(工) 森本健志
	実学コラボレーション演習			2	教授 博(工) 森本健志
	博士リテラシー			2	教授 博(工) 森本健志

〈履修方法〉

1. 3年以上在学し、専修科目(特講)の中から選定した1科目と専修科目(特殊研究)の中より選定した1科目(これをその学生の専修科目とする)の指導教員による研究指導を受け、さらに選択必修科目(演習)の中より2科目8単位以上を受講し、合計20単位以上を修得しなければならない。

## 9. 授業時間について

授業は年間を通じて午前9時から午後6時15分までの間に授業時間割表により90分単位で行われます。ただし、演習・研究実験については時間表割以外に行われることもあります。

## 10. 履修登録について

- (1) 所属の研究科専攻に開設されている科目の履修の選定にあたって、指導教員の指示を受けなければなりません。(学則第11条)
- (2) 大学院学生は年度始めの大学院ガイダンスに出席し、履修登録についての説明を受け、所定の期日までにその年度に履修予定の科目を決定・登録しなければなりません。

## 11. 履修科目の単位認定について

履修科目の単位認定は、試験によって各担当者が行います。試験は前期末または学年末に実施されます。ただし科目または担当者によって研究報告または平常の成果をもって試験に代えることもあります。(学則第15条)

## 12. 成績について

成績は100点満点で60点以上を合格とし、所定の単位が与えられます。合格点を得た科目を再度受験することは認められません。成績の評価は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点以下)となっています。ただし演習および実験のような講義以外の科目については、「合格」または「不合格」で示します。(学則第16条)

## 13. 課程の修了について

- (1) 修士課程または博士前期課程において2年以上在学し、各研究科において定められた単位数(学位規程別表1参照)を修得した者または論文審査終了までに取得する見込のある者で、かつ外国語の学力等に関する検定に合格した者に対しては、修士論文の提出資格が与えられ、提出した論文の審査および最終試験に合格すれば、修士の学位が授与され、「修士課程修了」又は「博士前期課程修了」ということとなります。ただし、上記の場合において、当該博士課程の前期課程または修士課程の目的に応じ、適当と認められるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって学位論文の審査に代えることができます。(学則第17条、学位規程第3条、第7条、第8条、第11条)
- (2) 博士後期課程において3年以上、医学研究科博士課程においては原則として4年以上在学し、各研究科において定められた単位数(学位規程別表1参照)を修得した者または論文審査終了までに修得する見込のある者で、かつ外国語の学力等に関する検定に合格した者に対しては、課程修了による博士論文の提出資格が与えられ、提出した論文の審査及び最終試験に合格すれば、課程修了による博士の学位が授与され、「博士後期課程修了」または「博士課程修了」ということとなります。(学則第17条、学位規程第4条、第14条、第15条、第18条)

## 14. 博士学位論文審査料（手数料）

種類	区分	研究科名	審査料（手数料）
博士	課程修了者の学位申請	法 学 商 学 経 済 学 総 合 理 工 学 薬 学 農 学 生 物 理 工 学 シ ス テ ム 工 学 産 業 技 術	無 料
		医 学	50,000 円
学 位	論文提出による者の学位申請	法 学 商 学 経 済 学 総 合 理 工 学 薬 学 農 学 生 物 理 工 学 シ ス テ ム 工 学 産 業 技 術	(1) 本学園の専任教職員の場合： 50,000 円 (2) 上記(1)以外の場合： 200,000 円
		医 学	(1) 本学園の専任教員の場合： 100,000 円 (2) 上記(1)以外の場合： (特別研究生も)：250,000 円

※ 修士学位論文審査料 無料

## 15. 博士前期課程より博士後期課程に進む場合について

博士前期課程より博士後期課程に進む場合は、学位規程別表1に記載された修士論文提出に必要な単位数を修得し、進学試験に合格できなければなりません。

本学においては、博士前期課程に2年以上在学し、所定の単位数を修得した者に対しては修士論文の提出を求め、修士として前期課程を修了するように指導している関係で、博士後期課程に進む者は必ず修士の学位をもっているということになります。この場合は、博士後期課程の進学試験に合格しなければなりません。(学則第36条、第37条)

## 16. 学籍関係の概略

### 1. 学籍番号

入学手続を完了した者に対しては学籍番号が決められ、学生証に記入されます。この番号は学生として登録されたことを表し、受験または各種証明書交付願等の場合、必ず研究科、専攻、氏名と共に、この学籍番号を記入しなければなりません。

### 2. 各種変更届について

現住所、姓名等で身上に変更事項のあった場合は、速やかに届け出る必要があります。特に在学中における現住所については、届け出を正確にしなければ緊急連絡のある場合、思わぬ不利を招くこととなりますから注意してください。

### 3. 退学・休学・再入学・除籍・復学について

- (1) 病気その他やむを得ない理由で退学する場合、または休学する場合は、学生証を添付して学部学生センターに届け出なければなりません。(所定の用紙は学部学生センターで交付)(学則第18条・第19条)
- (2) 退学したものが、再び学業を続けようとする場合は学部学生センターに出願して研究科委員会の議を経れば再入学が許可されます。ただし、退学の日より長期にわたる場合は試験を実施し、その上で許可する場合があります。また学年の始めでないと許可されません。(詳細は学部学生センターに照会)(学則第24条)
- (3) 学費を期限までに納入しない場合は、学則の定めるところにより除籍され、学生の身分を失うことになります。(学則第21条)
- (4) 除籍されたものが学籍の復帰を希望するときは、所定の期間内に手続をした場合、選考の上復学が許可されます。ただし除籍の日から所定の期間を経過した場合は許可されません。(詳細は学部学生センターに照会)

## 17. 学位論文の作成について

1. 修士・博士の論文および論文内容の要旨は各研究科によって様式が定められているので、指導教員の指示を受け様式に従って作成しなければ受理できません。
2. 修士または博士論文審査および最終試験受験申請書は大学ホームページから入手し、必要事項を記入のうえ必要添付書類とともに定められた期日までに指導教員に提出しなければなりません。

## 18. 資格取得 教育職員免許状(中学校・高等学校専修)

中学校・高等学校教諭一種免許状をすでに取得しているものが、本学大学院博士前期課程の該当する専攻において、24単位以上(ただし、特別研究と共通科目は除く)を修得し、修了と同時に免許状の授与申請をすれば、中学校・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。ただし、一部の科目はこれに含まれないので、詳細は学部学生センターに照会してください。(学則第13条・第14条)

## 19. 証明書等発行手数料一覧

種 別		金 額	種 別		金 額
科目等履修生 登録料	大	本学大学院在籍者及び 修了者(中途退学者を 含む)は、免除	証明書及び 手数料	仮学生証カード発行	500円
	学			成績証明書	200円 (コンビニエンス ストアでの 発行の場合 500円)
院	講義科目1単位	単位取得証明書			
	実験・実習・演習科目1単位	司書資格証明書			
	学 費 延 滞 料	健康診断証明書			
	復 籍 料	修了見込証明書			
証明書及び 手数料		MIPS・IDカード再発行		卒業見込証明書	300円
		学 生 証 再 発 行		在籍証明書	
		教員免許申請単位取得証明書		在学証明書	
		英 文 各 種 証 明 書		教員免許状取得見込証明書	300円
		修 了 証 明 書	就職試験推薦状		
		卒 業 証 明 書	入学手続完了証明書	200円	
	学 位 授 与 証 明 書				

## 20. 中央図書館案内

学習・研究にあたっては、中央図書館を大いに活用してください。

中央図書館は、中央館（10号館）・ビブリオシアター（5号館）と19号館図書室・A館図書室・B館図書室の3つの分室からなります。中央図書館を利用する際に、是非知っておいてほしい項目を下記に記載します。

利用の詳細については、中央図書館ホームページまたは中央図書館の各カウンターでお尋ねください。

### 1. 開館時間（中央図書館）

開講期：（月～土曜日）8：45～22：00 閉講期：（月～土曜日）9：00～18：00

試験期：（月～土曜日）8：30～22：00 日曜・休日開館日：10：00～18：00

※館内へは学生証を使って入館してください。

※長期休暇期間や大学行事等により、休館又は閉館時間が異なりますので、ご利用の際は、中央図書館ホームページや公式Xにて最新の情報をご確認ください。

### 2. 貸出冊数・期間

学部生：10冊15日以内

大学院生：20冊1カ月以内

※貸出の際には学生証が必要です。

※長期休暇期間、前期・後期定期試験期間中は、貸出冊数・期間を変更することがあります。

### 3. 授業計画（Syllabus）参考文献について

「授業計画（Syllabus）」で教員が参考文献に指定した図書を配架しております。講義・実験・実習や定期試験等に活用してください。

### 4. 各種講習会について（オーダーメイドによる随時開催など）

図書館では、より良いレポート・論文を作成するための情報収集法や、各種データベース・電子資料の使い方などを講習会形式でお教えします。どうぞご利用ください。

講習会の内容や申込についての詳細は、中央図書館ホームページなどでお知らせします。

### 5. 電子資料の利用

学外からパソコン・スマートフォンで、電子ブック・電子ジャーナル・データベースなどを利用することができます。

#### 中央図書館URL

中央図書館HP <https://www.clib.kindai.ac.jp>

データベース学外利用 [https://www.clib.kindai.ac.jp/search/db\\_vpn.html](https://www.clib.kindai.ac.jp/search/db_vpn.html)

蔵書検索システム（OPAC） <https://opac.clib.kindai.ac.jp>

中央図書館公式X @Kindai\_Clib



中央図書館HP

## 21. 大学院学生への伝達方法

(1) 大学院学生への通知は学生ポータルシステム「UNIVERSAL PASSPORT EX（学生向けwebサービス）」にて行います。特に授業期間中は毎日最低一度確認するよう心がけてください。通知を見ないことによって思わぬ不利を招くことがありますので、注意してください。

(2) 手続きや情報の詳細は、大学ホームページにも記載されています。

## 22. 定期健康診断

4月に行われる定期健康診断は、必ず受けてください。定期健康診断を受けない場合は健康診断証明書の発行ができません。

疾病、その他やむを得ない事由により、定期健康診断を受けなかった場合は、速やかにメディカルサポートセン

ター（11月ホール3階）に申し出て、指示を受けてください。

## 23. 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い

暴風警報等が発表された場合及び台風や地震等により交通機関が運行停止となった場合、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき授業が短縮または休講となることがあります。大学ホームページまたはUNIVERSAL PASSPORTにてお知らせしますので、その指示に従ってください。居住されている地域の被災により避難指示（緊急）・避難勧告が発表された場合や公共交通機関が運行停止等になり登校できない場合は、欠席による不利益がないよう配慮しますので、身の安全を最優先に考え、適切な行動をとってください。

## 24. 理工学部「災害発生時の救急、避難措置についての対策マニュアル」

理工学部安全管理・衛生委員会  
(1997年9月作成)  
(2020年4月改訂)

理工学部における教育・研究遂行中の災害や、地震など偶発的な災害および犯罪性のある災害に対し、日頃からその対策をたてて備えておくことは、多くの学生をあずかる全ての教職員にとって極めて重要なことである。本学部における学生数、研究室および実験室数を考えれば、災害発生の可能性は皆無とはいえない。従って、人命尊重の立場から理工学部として独自に緊急災害発生時の救急、避難措置についての対策を講じておくことが必要である。

### 基本方針

- (1) 近畿大学には「災害対策本部（総務課管轄）」があり、基本的には同本部防火・防災管理規程に準拠すべきであるが、危険物や大型実験装置等を保有する理工学部では、独自のマニュアルを作成し、日頃から対策を講じておかねばならない。また、教職員は、救命救急の講習を受けるなどして、災害時に適切な対処が出来るよう常に心がけなければならない。
- (2) 緊急・災害時の通報ならびに救急措置については、別紙の「理工学部における緊急・災害時の通報組織図」に示すように、人命を最優先にして行動をとり、「災害対策本部または理工学部学生センター（昼間）」へ速やかに連絡をとることを旨とする。以下、簡略化のため「理工学部における緊急・災害時における通報組織図」のことを「通報組織図」と呼ぶ。
- (3) 緊急・災害時に望まれるのは、常に言われるように「まず、落ち着くこと」である。  
災害を最小限にとどめるために教職員および学生は、以下に示すマニュアルを参考にして行動することが望ましい。

### [対策と避難マニュアル]

#### 対策

- (1) 災害発生を発見した場合、
  - 災害の発見者もしくは発生当事者が教員の場合は、別紙の「通報組織図」に従って速やかに通報し、災害を最小限にするよう努力する。
  - 災害発見者もしくは発生当事者が学生の場合は、直ちに担当教員に連絡を取ること。担当教員が不在の場合には、最も近くの教職員に速やかに連絡を取ること。連絡が取れない場合には本人がつぎの(2)項を参照の上、別紙の「通報組織図」に従い速やかに通報し、災害を最小限にするよう努力する。(つぎの(2)項を参照)
  - ここで大切なことは、災害の発生当事者が倒れるなどして連絡不能ということも十分考えられるので、時間外(\*)の夜間実験は二人以上で行うことを原則とする。  
(\*) 時間外とは午後6時以降を指し、午後10時以降の使用については指導教員の許可を得た上で、守衛室(総務課)に「実験室等 時間外使用 学内宿泊願」を提出すること。
- (2) 災害発生の連絡を受けた教職員は、
  - まず、被災者および施設の災害の状況を把握した上で、速やかに「災害対策本部または理工学部学生センター(昼間)」に連絡すること。

- このとき、救急を要する場合には別紙の「通報組織図」に従って、直接消防署（消防車、救急車）に連絡すること。
  - また、二次災害が予想される場合には、大声で避難を呼びかけ、他の教職員および学生の応援を得て、全ての学生および教職員を戸外などの安全な場所に速やかに誘導する。（(6)～(9)項を参照）ここでいう「二次災害」とは、化学薬品・危険物・都市ガス・感電・災害に伴う有毒ガスおよび落下物などによる二次的な災害を意味する。
- (3) 災害が偶発的でない場合、すなわち犯罪に少しでも関係があると思われる場合、
- 発見者の判断により直ちに警察署（110番）に連絡し、その後、速やかに「災害対策本部または理工学部学生センター（昼間）」に連絡すること。このとき、必要に応じて(1)、(2)、(4)および(6)項を参考にして対処すること。
  - 初期捜査は、事件解決に大変重要である。従って、間違いを恐れることなく警察に連絡すべきである。
- (4) 火災の場合、
- 火災発見者は、直ちに消防署に連絡するとともに、各階廊下および実験室等に設置されている「粉末消火器」または「消火栓」を用いて初期消火に努める。
  - このとき、必要があれば大声で付近の教職員および学生にも応援を呼び掛け、効率よく初期消火に努める。
  - 初期消火の際、消火が一段落した場合もしくは消火中に第三者に依頼できる場合、必ず「災害対策本部」に連絡すること。
  - コンピュータおよび精密機器などの消火には、研究室・実験室等に備え付けられている「炭酸ガス消火器」を用いることが望ましい。
  - 有毒ガスなどの発生が認められる場合には、近くに「防毒マスク」があればそれを用い、なければハンカチや布類などを用いて、鼻・口を覆って行動すること。
  - 消火中、必要があれば「二次災害」に十分注意しながら、以下の(6)～(9)項を参考にして避難すること。
- (5) 災害により実験室および研究室の電話が使用不能の場合、携帯電話の持ち合わせがあれば、それを用いて災害の状況を「災害対策本部」に連絡し、消防署および警察署への連絡または適切な処置を依頼すること。

## 避難

- (6) 緊急避難する場合、
- まず、安全な方向を確認した上で、必ず各廊下に設置してある「緑の誘導灯」に沿って速やかに避難する。
  - 講義中の場合は、教員が冷静に学生を安全な場所に誘導する。（(9)・(10)項を参照）
  - エレベータを使用しない。（二次災害を防止するため）
  - 必要に応じて各階に設置されている「避難器具」で速やかに戸外に脱出する。
- (7) 災害弱者の避難に対する配慮、
- 災害弱者（身体障害者、けが人、病人、老人など）が安全迅速に避難できるよう十分な配慮をして行動すること。
  - 必要に応じて各号館内に設置してある担架（ストレッチャー）を用いるなどして、災害弱者を迅速かつ安全に誘導すること（(9)項を参照）。各号館の担架の設置場所は、日頃から確認をすること。
  - 必要に応じて、各号館に設置してある「防災キャビネット」内の救助用品・装備品・救急用品を用いるなどして、災害弱者を迅速かつ安全に誘導すること。各号館の「防災キャビネット」の設置場所を日頃から確認しておくこと。「防災キャビネット」は施錠されているので、各号館事務室で鍵を借りること。
  - 災害弱者かどうかは必ずしも外見だけでは判断はできない。
  - 人命尊重の立場から、他人の人命にも配慮できる心の余裕をもって行動する。
- (8) 火災の場合には、残留者がいないことを確認した上で、防火扉を閉め避難する。
- (9) 教職員および学生は、上記(6)・(7)項に従って、大学キャンパス内の「緊急避難場所」に速やかに避難する。「緊急避難場所」として、北テニスコート、立体駐車場・駐輪場、南グラウンド、G館北側広場、人工芝グラウンド、クラブセンターグラウンド、東グラウンド、34号館西広場が指定されている。

(10) 講義中に地震が発生した場合、

- 教員はパニック状態を防ぐ観点から、学生に「地震が一段落するまで、慌てて外に飛び出すことは大変危険である」ことを説明し、冷静な行動を指示すること。

「地震時の注意」

- ① 窓際や棚などから離れ、机下にもぐるか、衣類・持ち物などで頭を保護し、落下物から身を守る。
- ② ドアを開けて、出口を確保する。
- ③ 直ちに火を消し、電気器具の電源を切る。ただし、身の安全を最優先とすること。
- ④ エレベータ乗降中の場合、各階すべてのボタンを押し、最初に止まった階で降りる。
- ⑤ エレベータに閉じこめられたら、「非常用呼び出しボタン」等での連絡を取る努力をすること。
- ⑥ 余震に備え、慌てずしばらく様子を見る。

「揺れがおさまり、避難する際の対応」

- ① 落ちついて行動する。周辺がパニックに陥りそうなときは、状況に応じた指示を声に出してお互いに確認し、「緊急避難場所」まで速やかに移動する。
- ② 火災が起きている場合は、ハンカチ等（水で濡らせればより良い）で口を覆う。
- ③ 移動する際は、エレベータは使わず、階段で移動する。

「実験中に地震が発生した場合の対応」

- ① 窓際や棚などから離れ、机下にもぐるか、衣類・持ち物などで頭を保護し、落下物から身を守る。
- ② ドアを開けて、出口を確保する。
- ③ 火元・ガス元栓を締め、電気器具の電源を切る。
- ④ 化学物質の漏洩により火災が発生した場合は、教員に通報し、初期消火する。ただし、身の安全を最優先とすること。
- ⑤ 地震がおさまってから最寄りの「緊急避難場所」まで速やかに移動する。
- ⑥ あらかじめ「安全要覧」を読み、日頃から装置・化学薬品の性状を理解し、実験を行なうこと。

(11) 登下校中に地震が発生した場合、

- ① 徒歩・自転車の場合、建物の近くでは看板、ガラス片、壁のタイル等が落下してくる可能性があるため、持ち物で頭を守り、安全な場所に避難する。また、自動販売機やブロック塀が倒れてくる場合があるので注意する。
- ② 電車の場合、強い揺れを感じると、電車は緊急停止する。座っている時は、低い姿勢を保ち、鞆などで頭を守る。立っている時は、手すりやつり革をしっかりと握り転倒しないようにする。地下鉄の場合、高压電線が線路脇に設置されているので、勝手に線路に降りると非常に危険である。

応急手当

(12) 災害発見者またはけが人の判断により、教職員または学生がけが人に付きそうなどして「通報組織図」に従い、メディカルサポートセンター・大学委託医療機関、その他の医療機関で速やかに治療を受けること。（「通報組織図」に電話番号を明記）

AED（自動体外式徐細動器）

(13) 東大阪キャンパスでは、平成17年から学内にAEDを設置し、安全対策の一助としている。病院に行くまでに、または救急車が到着するまでの応急手当が救命には不可欠である。AEDの使用方法和心肺蘇生方法の講習会に積極的に参加し、緊急時に備えておく。

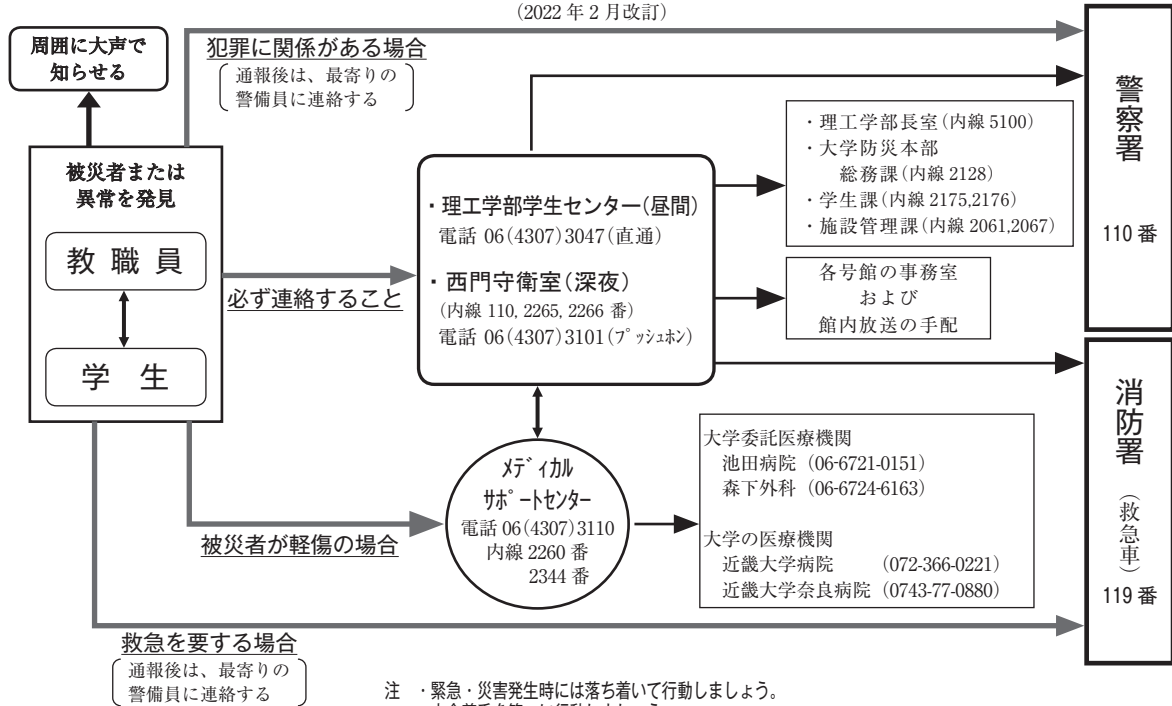
日頃の心構え

- 理工学部安全管理・衛生委員会が主催で行う救急救命講習会、防災訓練、各種講演会に積極的に参加する。研究内容に応じて、適宜「理工学部安全要覧」を参考にして安全に努める。
- 家族との連絡方法や待ち合わせ場所を確認しておく。
- 災害時の連絡方法（友人・研究室・大学）や帰宅経路、学内の「緊急避難場所」やAEDや防災キャビネットの設置場所を確認しておく。
- 自宅やマンションでの地震遭遇に備え、「持ち出し品」を用意し、定期的に点検する。
- 「地震発生時避難行動ガイド」は、UNIVERSAL PASSPORT からダウンロードできます。地震発生時は、ネット環境によらず使用できるよう、常時スマートフォンに保存しておく。

# 理工学部における緊急・災害時の通報組織図

理工学部 安全管理・衛生委員会

(2022年2月改訂)



注 ・緊急・災害発生時には落ち着いて行動しましょう。  
 ・人命尊重を第一に行動しましょう。  
 ・避難時には災害弱者(身体障害者、けが人、病人、老人など)に十分な配慮をして行動しましょう。  
 ・日頃この組織図を理解するよう努力しましょう。

## 地震発生時の注意事項

理工学部 安全管理衛生委員会  
(2022年4月作成)

- ① その場を動かない。(パニック状態を防ぐ)
- ② 出入口を開ける。(ドアが開かなくなることがある)
- ③ ガラス窓から離れる。(けがをする場合がある)
- ④ 頭上の蛍光灯などに注意する。(けがをする場合がある)
- ⑤ 地震が一段落したら教職員の指示に従って「緊急避難場所」へ移動する。  
(二次災害を防止するため)
- ⑥ エレベーターを使用しない。(二次災害を防止するため)
- ⑦ 建物の外に出たら速やかに建物から離れ、ガラスなどの落下に備える。  
(二次災害を防止するため)

### 緊急避難場所

- ・立体駐車場・駐輪場
- ・南グラウンド
- ・北テニスコート
- ・Eキャンパスグラウンド
- ・クラブセンターグラウンド
- ・東グラウンド
- ・34号館西広場

## 25. 奨学金・教育ローンについて

経済的な理由で修学の道が閉ざされることがないように、様々な種類の奨学金・教育ローンがあります。

奨学金の貸与を希望される方は、近畿大学HP (<https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/>) を確認のうえ所定の期日に申し込んでください。



詳細はこちら

### 1 日本学生支援機構（定期採用）

日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、国が実施する貸与型の奨学金制度です。

#### 資格基準

《人物》

高度の研究能力を有し、経済的理由により、修学に困難があると認められる人。

《学力》

博士前期課程及び修士課程

大学等ならびに大学院における成績が特に優れ、将来、研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができると認められること。

博士後期課程及び博士課程

大学等ならびに大学院における成績が特に優れ、将来、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力を備えて活動することができると認められること。

#### 収入所得の上限額の目安

	課 程	給与所得者の場合	給与所得者以外の場合
第 一 種 授業料後払い制度	修 士 課 程 博 士 前 期 課 程	299 万円	197 万円
	博 士 後 期 課 程 医・薬学博士課程	340 万円	223 万円
第 二 種	修 士 課 程 博 士 前 期 課 程	536 万円	364 万円
	博 士 後 期 課 程 医・薬学博士課程	718 万円	503 万円
併 用 [第一種・第二種 同時貸与]	修 士 課 程 博 士 前 期 課 程	284 万円	188 万円
	博 士 後 期 課 程 医・薬学博士課程	299 万円	197 万円

貸与期間 貸与期間は、採用時から各課程の最短修業の最後までとします。

申込期間 4月上旬

貸与月額 令和8年度採用者用

第一種 貸与 (無利子) 選択型	課 程	貸与月額
	修 士 課 程 博 士 前 期 課 程	50,000 円 または 88,000 円
	博 士 後 期 課 程 医・薬学博士課程	80,000 円 または 122,000 円

第二種 貸与 (有利子) 選択型	希 望 す る 奨 学 金 の 月 額 を 次 の 中 か ら 選 べ ま す 。 50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・ 150,000 円（貸与途中で月額を変更することも できます）

#### 授業料後払い制度の貸与額（一種併用不可）

奨学金の内訳	大学院の課程の区分
	修士課程相当
授業料支援金	私立： 最大 776,000 円 (1年間の額。この額を「支援対象授業料」といい、学校が金額を決定します。)に、 保証料相当額を加えた額 ※申込者は支援対象授業料の額を選択することはできません。支援対象授業料の額 は、学校が課している授業料の状況（納付済みの授業料や授業料減免等）によって変 動することがあります。
生活費奨学金	月額 0 円（利用しない）、2 万円、4 万円から選択

授業料後払い制度は、授業料に充てるために授業料が生じる時期に応じて貸与される「授業料支援金」と、生活費に充てるために毎月貸与される「生活費奨学金」で構成されています。なお、「生活費奨学金」のみの申込みはできません。

授業料後払い制度は、修士課程相当でのみ利用できます。そのため、一貫制博士課程の場合、前期課程でのみ利用できます。

○奨学金の貸与に当たっては、連帯保証人や保証人を選任する「人的保証制度」か、一定の保証料を支払い保証を受ける「機関保証制度」を選択しなければなりません。

○その他、家計急変世帯を対象とした、緊急採用・応急採用制度があります。

奨学金の詳細は次をご参照ください。




独立行政法人 日本学生支援機構ホームページ <https://www.jasso.go.jp/>

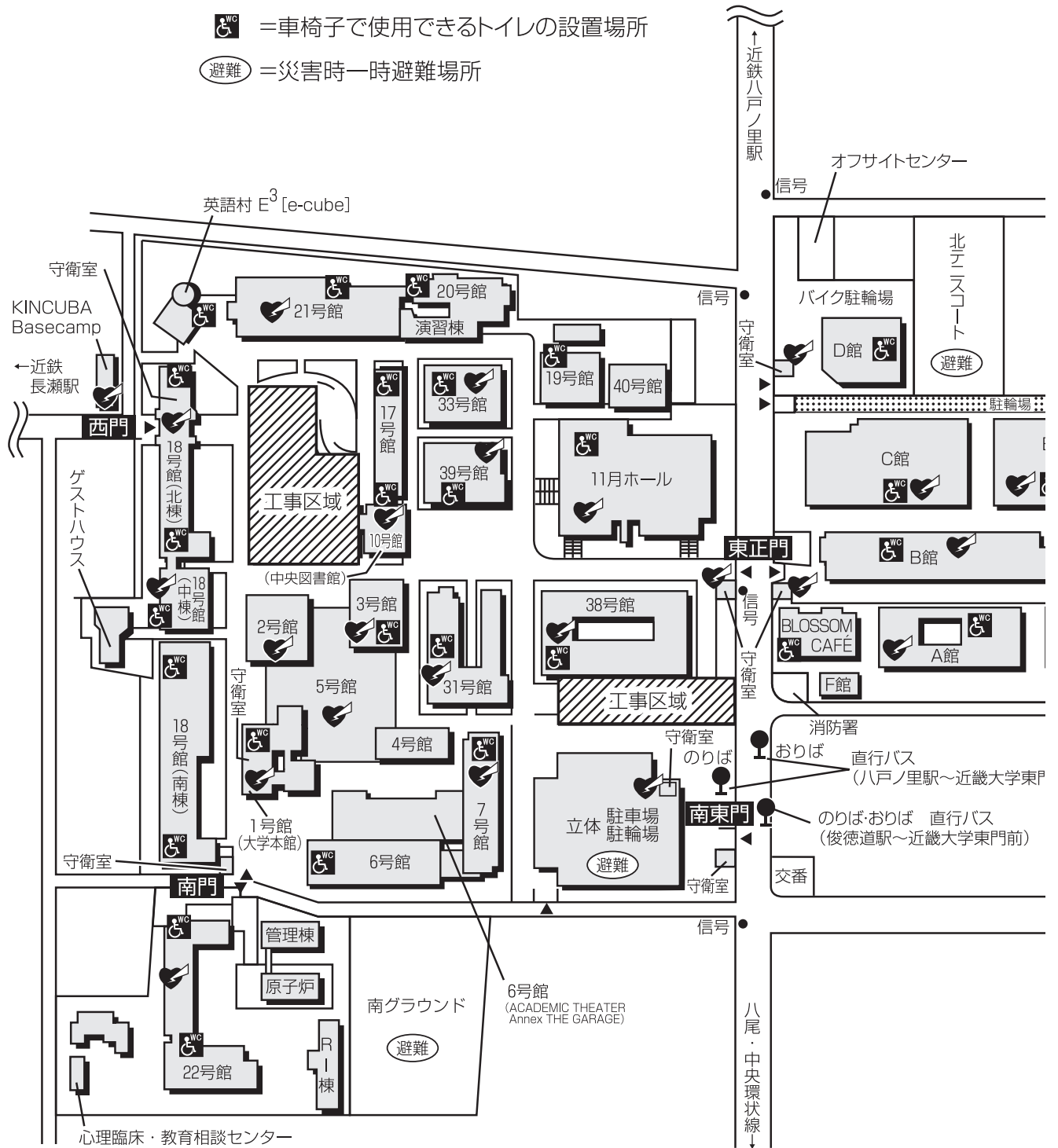
※「特に優れた業績による返還免除」制度について

大学院において第一種奨学金の貸与を受けた学生であって、在学中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した場合には、貸与期間終了時に奨学金の全部または一部の返還が免除される制度です。貸与終了年度の1月ごろに募集します。

<p style="text-align: center;">2 近畿大学奨学金 (貸与)</p>	<p>大学独自の貸与型奨学金で年額（一年分）を一括して貸与します。 貸与された奨学金は卒業後に返還します。</p> <p><b>申込資格</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学の定める家計基準を超えない人。</li> <li>・ 人物・学業ともに優秀でありながら、経済的理由により修学が困難な人。</li> </ul> <p><b>貸与金額</b> 年額 600,000 円（無利息）</p> <p><b>貸与期間</b> 申込年度限りです。（毎年申込可能）</p> <p><b>申込期間</b> 4 月上旬</p> <p>※採用手続時に連帯保証人 2 名が必要です。 ※その他、家計急変世帯を対象とした「応急奨学金」、災害に遭われた世帯を対象とした「災害特別 奨学金」があります。奨学金の詳細は次をご参照ください。 近畿大学ホームページ <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/</a></p> <p><b>交付時期</b> 7 月下旬（全キャンパス・一括振込）</p>
<p style="text-align: center;">3 世耕弘一奨学金 (給付)</p>	<p>大学独自の給付型奨学金で年額（一年分）を一括して給付します。 返還の義務はありません。</p> <p><b>申込資格</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学の定める家計基準を超えない人。</li> <li>・ 他の給付奨学金を受給していない者、もしくは特待生制度等で学費の減免制度の適用を受けていない者。</li> </ul> <p><b>給付金額</b> 年額 300,000 円（一括給付） 申込年度限りです。（毎年申込可能）</p> <p><b>申込時期</b> 6 月（全キャンパス） ※詳細は各キャンパスで配布する募集要項をご覧ください。</p> <p><b>給付時期</b> 9 月末（全キャンパス）</p>
<p style="text-align: center;">4 地方公共 ・民間育英団 体の奨学金</p>	<p>地方公共団体・民間育英団体については、ホームページや奨学金専用掲示板で周知します。募集期間は、おおむね 2 月～4 月となっています。</p> <p>これ以外に各都道府県が独自に募集を行う場合もあります。独自で募集を行っている奨学団体については各自が直接奨学団体等に問い合わせください。</p>
<p style="text-align: center;">5 その他の教育ローン</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提携ローン「オリコ学費サポートプラン」 近畿大学が株式会社オリエントコーポレーション（通称オリコ）とローン提携したもので、学費等をオリコが立替払いして大学に納付し、利用者はオリコに分割返済することで一時的な負担を軽減することができます。 ※オリコ学費サポートプランの詳細は次を参照 近畿大学ホームページ <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/</a></li> <li>・ 国の教育ローン（日本政策金融公庫の教育ローン） 取扱い、ご相談は最寄りの日本政策金融公庫、銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協で受け付けています。 （利率：令和 7 年 9 月現在で年 3.15%「交通遺児家庭、母子家庭、父子家庭、世帯年収 200 万円（所得 132 万円）以内の方または子ども 3 人以上※の世帯かつ世帯年収 500 万円（所得 356 万円）以内の方は上記利率の▲ 0.4%（国定金利） ※お申込みいただく方の世帯で扶養しているお子様の人数をいいます。年齢、就学の有無を問いません。</li> </ul>

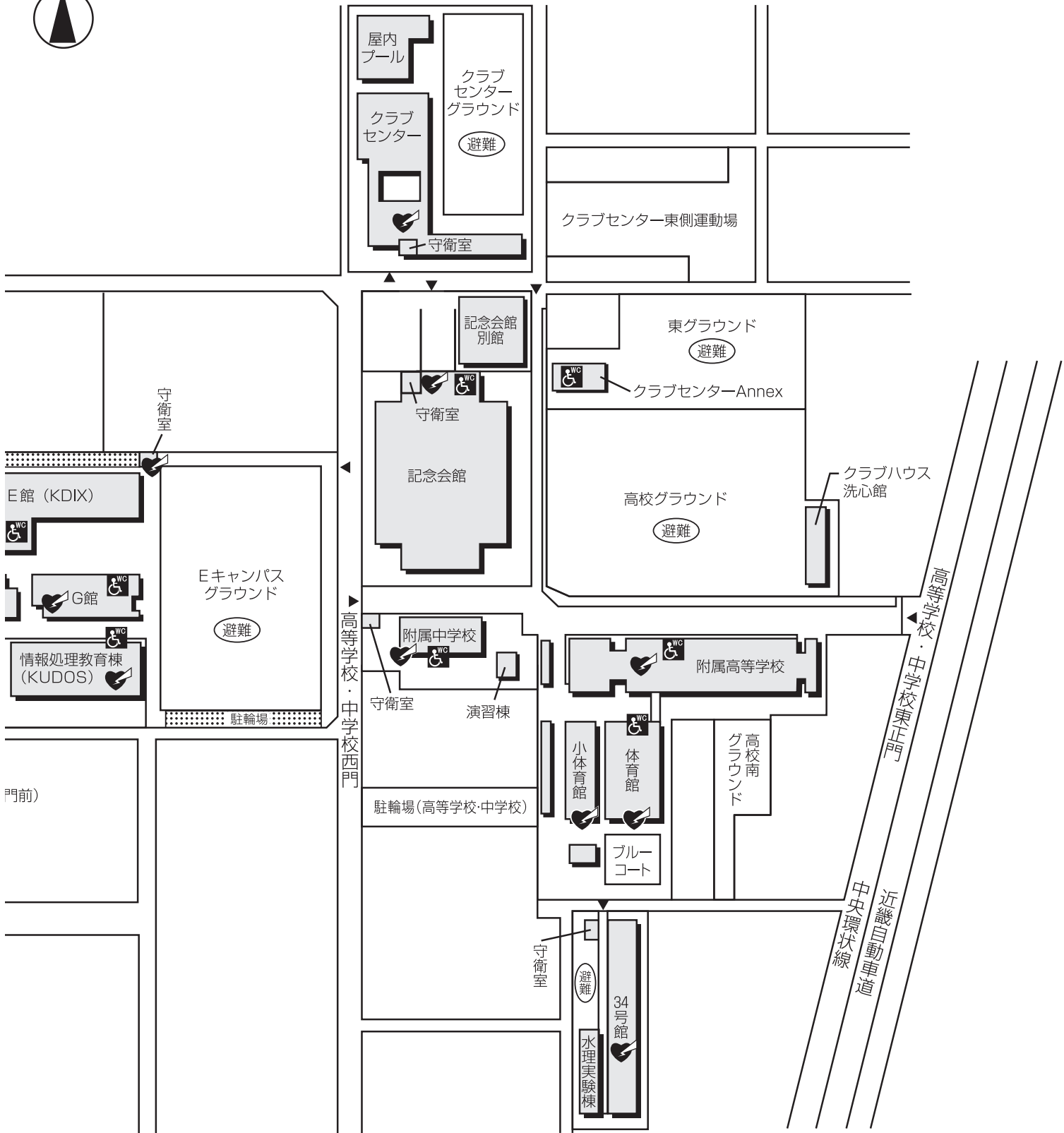
# ■近畿大学東大阪キャンパス校舎配置図■ (令和8年4月現在)

-  = AED(自動体外式除細動器)設置場所
-  = 車椅子で利用できるトイレの設置場所
-  = 災害時一時避難場所



## AED(自動体外式除細動器)設置場所

1号館(1階 守衛室前)	22号館B棟(1階 学科事務室前)	立体駐車場(守衛室前)	クラ
2号館(1階 実学ホール東側)	31号館西棟(3階 学科事務室前)	A館(1階 文芸学部学生センター前)	東門
3号館(1階 出入口自動扉前)	33号館(1階 アクティブ・ラーニング・commons前)	B館(1階 経済学部学生センター前)	西門
5号館(2階 アカデミックシアター事務室前)	34号館(1階 南側出入口付近)	C館(1階 法学部学生センター前)	Eキャ
7号館(1階 北側入口前)	38号館(1階 理工学部学生センター前)	E館(1階 情報学部学生センター前)	バイク
10号館(1階 中央図書館内)	39号館(1階 薬学部学生センター前)	G館(1階 総合社会学部学生センター前)	Eキャ
18号館(1階 国際学部学生センター前)	11月ホール(1階 大ホール出入口前、学生部内)	KUDOS(1階 インフォメーション前)	KINC
21号館(2階 経営学部学生センター前)	(3階 メディカルサポートセンター内)	記念会館(1階 守衛室前)	



車椅子用トイレ設置場所

センター(1階 守衛室前)
守衛室(守衛室内)
守衛室(守衛室内)
キャンパス守衛室(守衛室内)
ク駐輪場(守衛室内)
キャンパスグラウンド(守衛室前)
CUBA Basecamp(1階 カウンター横)

1号館(1階)	18号館(南棟)(1階)	33号館(1階)	D館(1階)
3号館(1階、2階)	18号館(中棟)(1階)	38号館(1階、6階)	E館(1階)
6号館(1階)	19号館(1階)	39号館(1階、6階)	G館(1階)
7号館(1階、2階)	20号館(1階、4階)	11月ホール(地下1階、1階、3階)	英語村(1階)
10号館(1、10階)	21号館(1階)	A館(1階)	KUDOS(1階)
17号館(1階)	22号館(1階)	B館(1階)	BLOSSOM CAFÉ(2、3階)
18号館(北棟)(1階)	31号館(1階)	C館(1階)	記念会館(1階)





近畿大学大学院

<https://www.kindai.ac.jp/graduate/>



近畿大学工学部・大学院総合理工学研究科

<https://www.kindai.ac.jp/science-engineering/>



近畿大学大学院学則

<https://www.kindai.ac.jp/files/about-kindai/overview/regulations/gakusoku/graduate.pdf>



学位論文審査に関する手引き（近畿大学学位規程【抜粋】を掲載）

<https://www.kindai.ac.jp/graduate/files/review/tebiki.pdf>

## 総合理工学研究科 履修要項 2026

2026.4 印刷発行

発行者 近畿大学大学院 総合理工学研究科

編集 近畿大学大学院 総合理工学研究科教務委員会

所在地 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

電話番号 (06)4307-3047

### インターネット版シラバス

下記のアドレスでもシラバスを公開しています。

<http://syllabus.itp.kindai.ac.jp/customer/Form/sy01000.aspx>

※インターネット版シラバスでは、専攻名以外にも、キーワードや、開講年次、単位、開講期、科目区分、必修・選択の別などの科目属性からシラバスを検索することができます。



 近畿大学